

5. フォローアップ計画

「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会実施段階環境影響評価書（新国立競技場（オリンピックスタジアム）」（平成 28 年 10 月 東京都）では、東京 2020 大会の開催前、開催後を対象に環境影響評価を実施している。一方、東京 2020 大会の開催中における大会の運営等については、現時点では具体的な計画が未定のため、環境影響評価を実施せず、今後の計画の熟度に応じて、別途実施する予定としている。

そのため、本フォローアップ計画書では、東京 2020 大会の開催前、開催後を対象としたフォローアップ計画をとりまとめることとし、東京 2020 大会の開催中の環境影響評価及びフォローアップ計画は、別途実施する予定とする。

5.1 大気等

(1) 東京 2020 大会の開催前

1) 調査事項

調査事項は、表 5.1-1(1)、(2)に示すとおりである。

表 5.1-1(1) 調査事項(東京 2020 大会の開催前)

区 分	調査事項
予測した事項	・ 工事用車両の走行に伴い発生する二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度 ・ 建設機械の稼働に伴い発生する二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度
予測条件の状況	・ 気象の状況(風向・風速) ・ バックグラウンド濃度の状況 ・ 工事用車両の状況(種類、台数、時間帯) ・ 建設機械の稼働状況(種類、台数、規格、稼働時間) ・ 一般車両の状況(種類、台数、時間帯)
ミティゲーションの実施状況	[工事用車両に対するミティゲーション] ・ 工事用車両に付着した泥土等が場外に飛散しないよう、出入口付近に洗車設備を設けて必要に応じてタイヤ等の洗浄を行う等、土砂・粉じんの飛散防止に努める計画としている。 ・ 低公害型の工事用車両を極力採用し、良質な燃料を使用するとともに、適切なアイドリングストップ等のエコドライブ及び定期的な整備点検の実施を周知・徹底する計画としている。 ・ 施工業者に対する指導を徹底し、工事用車両の過積載を防止する計画としている。 ・ 工事用車両が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める計画としている。 ・ 工事作業員の通勤に際しては、公共交通機関を利用する等通勤車両の削減に努めるよう指導する計画としている。 ・ 計画地からの工事用車両の出入りに際しては交通整理員を配置し、通勤・通学をはじめ一般歩行者の通行に支障を与えないよう配慮するとともに、交通渋滞とそれに伴う大気汚染への影響の低減に努める。また、適宜清掃員を配置し、清掃に努める計画としている。

表 5.1-1(2) 調査事項(東京 2020 大会の開催前)

区 分	調査事項
ミティゲーションの実施状況	[建設機械に関するミティゲーション] ・排出ガス対策型建設機械（第2次基準値）を使用する計画としている。 ・工事区域周辺には仮囲い（3.0m）を設置する計画としている。 ・周辺に著しい影響を及ぼさないように、工事の平準化に努めるなど事前に作業計画を十分検討する計画としている。 ・建設機械の集中稼働を行わないよう、建設機械の効率的稼働に努める計画としている。 ・最新の排出ガス対策型建設機械（第3次基準値）の使用に努める計画としている。 ・必要に応じて散水の実施、粉じん飛散防止シートの設置等、粉じんの飛散対策を講じる計画としている。 ・良質な燃料を使用する計画としている。 ・アイドリングストップの提示等を行い、不必要なアイドリングの防止を徹底する計画としている。 ・建設機械の稼働に当たっては、不必要な空ぶかし、急発進等の禁止を徹底させる計画としている。 ・建設機械は定期的に点検整備を行い、故障や異常の早期発見に努める計画としている。 ・環境保全のための措置を徹底するために、工事現場内を定期的にパトロールし、建設機械の稼働に伴う影響を低減する環境保全のための措置の実施状況を確認・指導を行う計画としている。 ・建築工事に関する近隣からの相談窓口を設置し、住民からの問い合わせに対しては、迅速かつ適切な対応を行う計画としている。 ・上記のミティゲーションについては、その遂行を徹底するよう、施工業者に対して指導を行う計画としている。

2) 調査地域

調査地域は、計画地及びその周辺とする。

3) 調査手法

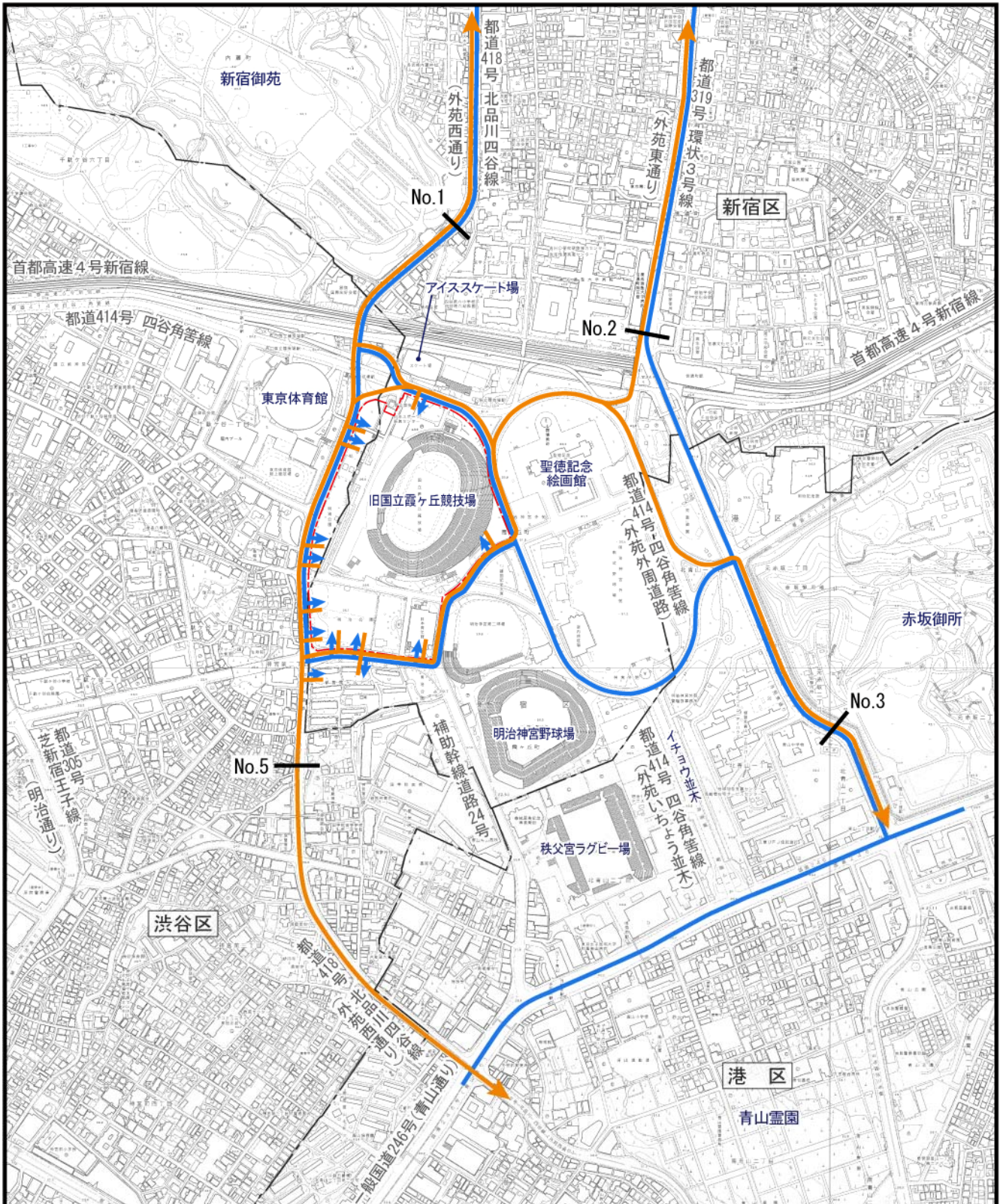
調査手法は、表 5.1-2(1)、(2)に示すとおりである。

表 5.1-2(1) 調査手法(東京 2020 大会の開催前)

調査事項		工事用車両の走行に伴い発生する二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度	建設機械の稼働に伴い発生する二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度
調査時点		工事用車両の走行台数が最大となる時点(工事着工後31か月目)とする。	建設機械の稼働に伴う大気汚染物質の排出量が最大となる時点(工事着工後1か月目)とする。
調査期間	予測した事項	代表的な1週間とする。	
	予測条件の状況	【気象の状況、バックグラウンド濃度の状況】 「予測した事項」と同一期間とする。	
		【工事用車両、一般車両の状況】 「予測した事項」の調査期間内の代表的と考えられる1日とする。	【建設機械の稼働状況】 「予測した事項」の調査期間内の代表的と考えられる1日とする。
	ミティゲーションの実施状況	工事の施工中の適宜とする。	
調査地点	予測した事項	工事用車両走行ルート上の4地点(図5.1-1に示す地点No.1～3、5)とする。	予測により求められた最大濃度着地点付近とし、計画地西側敷地境界付近1地点(図5.1-2に示す地点No.A)とする。
	予測条件の状況	【気象の状況】 東京管区気象台(風向、風速、雲量及び日射量)とする。	
		【バックグラウンド濃度の状況】 計画地周辺の大気汚染常時観測局とする。	
		【工事用車両の状況】 工事用車両の出入口とする。 【一般車両の状況】 工事用車両走行ルート上の4地点(図5.1-1に示す地点No.1～3、5)とする。	【建設機械の稼働状況】 計画地とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地及びその周辺とする。	

表 5.1-2(2) 調査手法(東京 2020 大会の開催前)

調査事項		工事用車両の走行に伴い発生する二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度	建設機械の稼働に伴い発生する二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度
調査手法	予測した事項	◎ 二酸化窒素 ・No. 1～3、5 簡易測定法(PTIO法) ◎ 浮遊粒子状物質 既存資料並びに工事用車両台数の整理による方法とする。	◎ 二酸化窒素 ・No. A 「二酸化窒素に係る環境基準について」(昭和53年7月環境庁告示第38号)に定める方法(JIS B 7953))及び簡易測定法(PTIO法) ・No. B、C 簡易測定法(PTIO法) ◎ 浮遊粒子状物質 ・No. A 「大気の汚染に係る環境基準について」(昭和48年5月環境庁告示第25号)に定める方法(JIS B 7954)
	予測条件の状況	【気象の状況】 東京管区気象台(風向、風速、雲量及び日射量)の観測値の整理による方法とする。	
		【バックグラウンド濃度の状況】 計画地周辺の大気汚染常時観測局の観測値の整理による方法とする。	
		【工事用車両の状況】 ハンドカウンタによる計測(大型車、小型車の2車種分類)及び関連資料(建設作業日報等)の整理による方法とする。 【一般車両の状況】 ハンドカウンタによる計測(大型車、小型車の2車種分類)とする。	【建設機械の稼働状況】 現地調査(写真撮影等)及び関連資料(建設作業日報等)の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料(建設作業日報等)の整理による方法とする。	



凡 例

- | | |
|---|--|
| 計画地 | 調査地点 (No. 1~3、5) |
| 区界 | → 工事用車両集中ルート |
| | ← 工事用車両発生ルート |



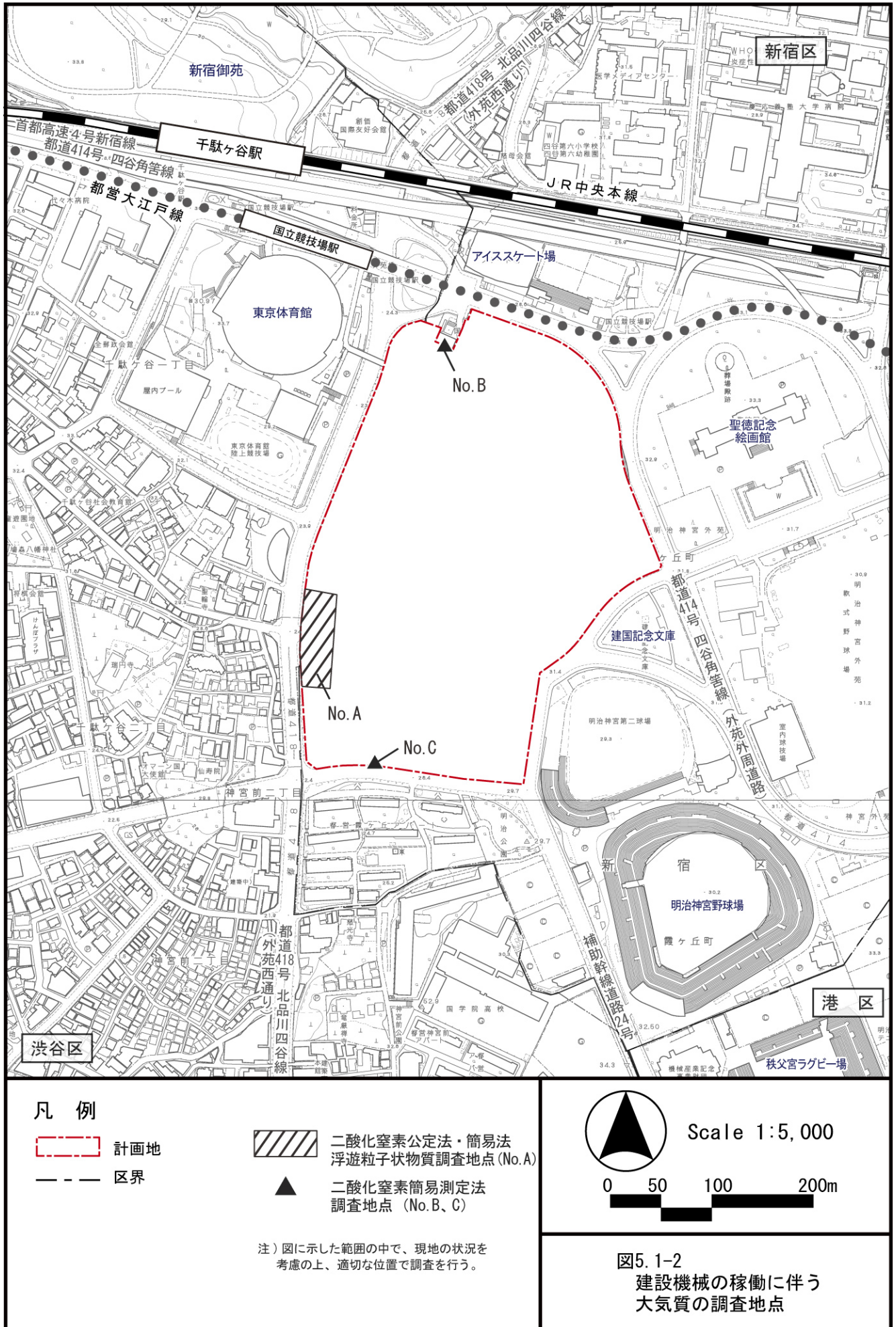
Scale 1:10,000

0 100 200 400m

図 5.1-1

工事用車両の走行に伴う大気質、
騒音・振動の調査地点

注) 図中の走行ルートは、施工計画等より東京都が想定した走行ルートを示す。



(2) 東京 2020 大会の開催後

1) 調査事項

調査事項は、表 5.1-3 に示すとおりである。

表 5.1-3 調査事項(東京 2020 大会の開催後)

区 分	調査事項
予測した事項	・ 関連車両の走行に伴う二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度 ・ 地下駐車場の供用に伴う二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度 ・ 熱源施設の稼働に伴い発生する二酸化窒素の変化の程度
予測条件の状況	・ 気象の状況(風向・風速) ・ バックグラウンド濃度の状況 ・ 関連車両の状況 ・ 一般車両の状況 ・ 地下駐車場の状況(諸元等) ・ 熱源施設の状況(施設の種類、諸元等)
ミティゲーションの実施状況	〔熱源施設の利用に関する保全のための措置〕 ・ 燃料には排気ガス中の汚染物質濃度が低い都市ガスを用いる計画としている。 〔関連車両及び地下駐車場利用に関する保全のための措置〕 ・ 駐車場内のアイドリングストップを周知する計画としている。 ・ 施設利用者に対して、極力公共交通機関を利用するように周知する計画としている。

2) 調査地域

調査地域は、計画地及びその周辺とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.1-4(1)、(2)に示すとおりである。

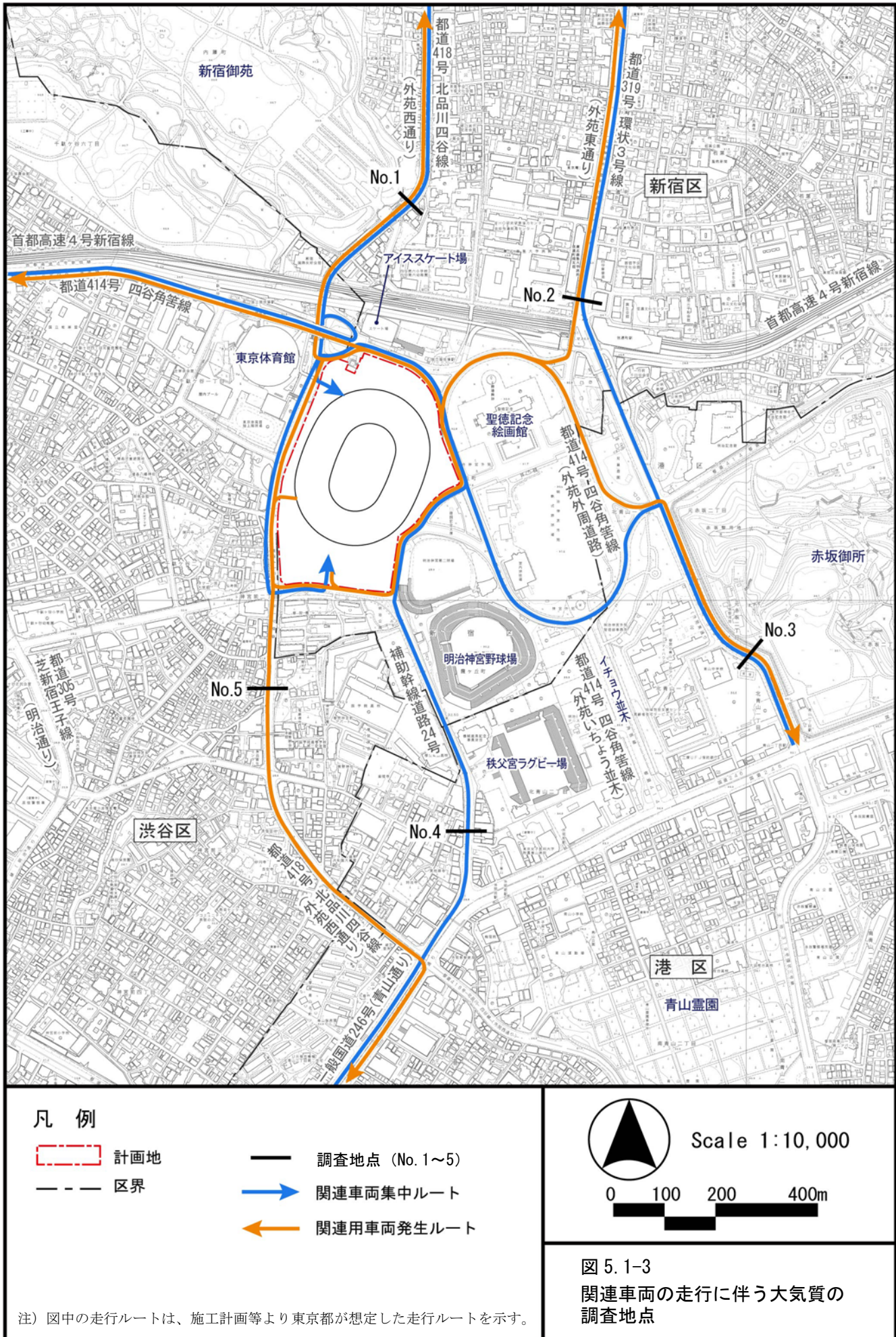
表 5.1-4(1) 調査手法(東京 2020 大会の開催後)

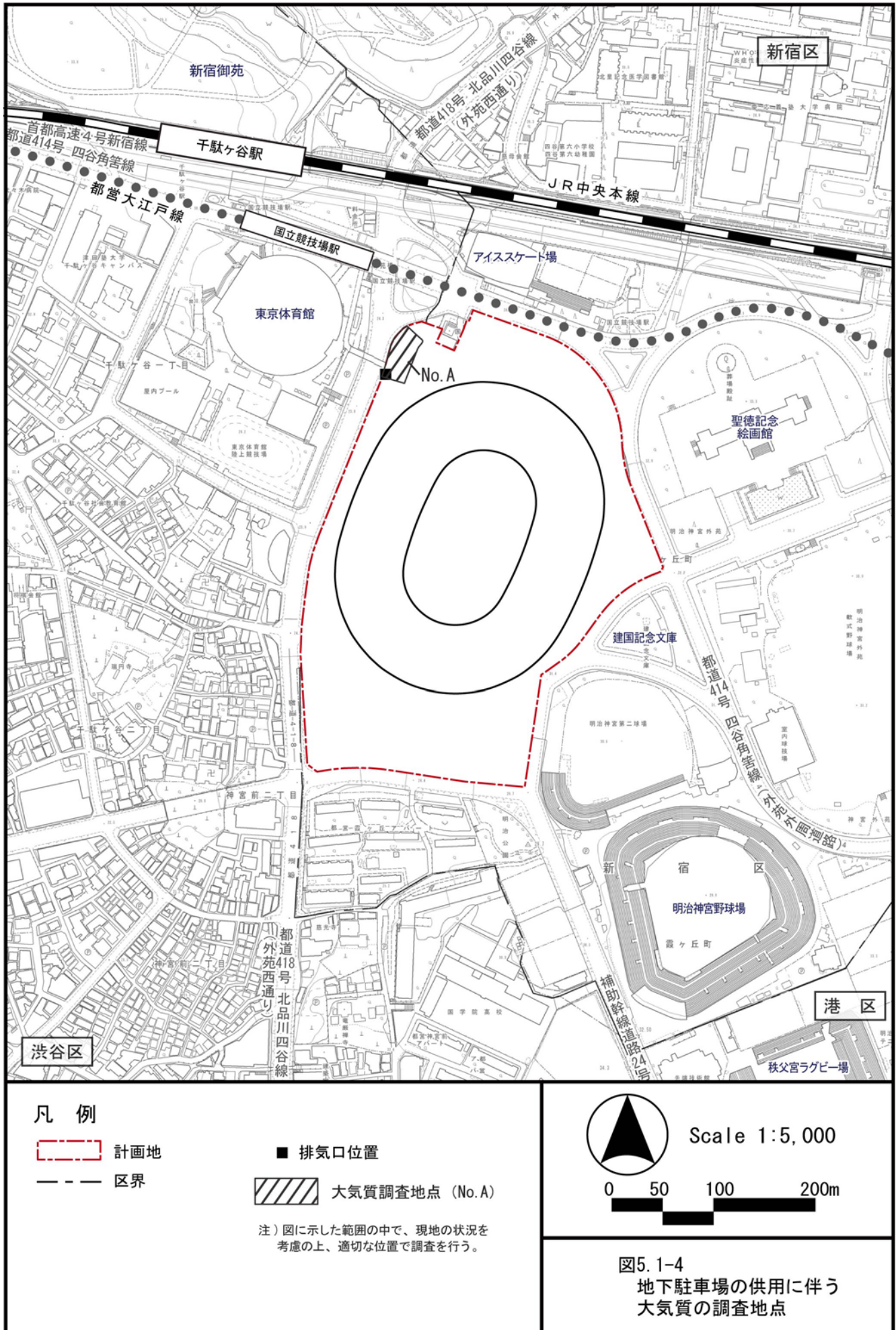
調査事項		関連車両の走行に伴う二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度	地下駐車場の供用に伴う二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度	熱源施設の稼働に伴い発生する二酸化窒素の変化の程度
調査時点		施設の供用が開始され、事業活動が通常の状態に達した時点とする。		
調査期間	予測した事項	代表的な1週間とする。		
	予測条件の状況	【気象の状況、バックグラウンド濃度の状況】 「予測した事項」と同一期間とする。		
		【関連車両、一般車両の状況、地下駐車場の状況、熱源施設の状況】 「予測した事項」の調査期間内の代表的と考えられる1日とする。		
	ミティゲーションの実施状況	供用開始後の適宜とする。		
調査地点	予測した事項	関連車両走行ルート上の5地点(図5.1-3に示す地点No.1～5)とする。	予測により求められた最大濃度着地地点付近とし、計画地西側敷地境界付近1地点(図5.1-4に示す地点No.A)とする。	計画地内とする。
	予測条件の状況	【気象の状況】 東京管区气象台(風向、風速、雲量及び日射量)とする。		
		【バックグラウンド濃度の状況】 計画地周辺の大気汚染常時観測局とする。		
		【関連車両の状況】 関連車両の出入口とする。 【一般車両の状況】 関連両走行ルート上の5地点(図5.1-3に示す地点No.1～5)とする。	【地下駐車場の状況】 地下駐車場利用車両の状況は駐車場出入口とする。 駐車場の排気口諸元は計画地とする。	【熱源施設の状況】 計画地とする。
ミティゲーションの実施状況	計画地及びその周辺とする。			

表 5.1-4(2) 調査手法(東京 2020 大会の開催後)

調査事項		関連車両の走行に伴う二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度	地下駐車場の供用に伴う二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度	熱源施設の稼働に伴い発生する二酸化窒素の変化の程度	
調査手法	予測した事項	◎ 二酸化窒素 ・ No. 1～5 簡易測定法(PTIO法) ◎ 浮遊粒子状物質 既存資料並びに関連車両台数の整理による方法とする。	◎ 二酸化窒素 ・ No. A 「二酸化窒素に係る環境基準について」(昭和53年7月環境庁告示第38号)に定める方法(JIS B 7953)) ◎ 浮遊粒子状物質 ・ No. A 「大気の汚染に係る環境基準について」(昭和48年5月環境庁告示第25号)に定める方法(JIS B 7954)	関連資料（施設の種類、諸元等）の整理・解析による方法とする。 ^{注)}	
	予測条件の状況	【気象の状況】 東京管区気象台（風向、風速、雲量及び日射量）の観測値の整理による方法とする。			
		【バックグラウンド濃度の状況】 計画地周辺の大気汚染常時観測局の観測値の整理による方法とする。			
		【関連車両の状況、一般車両の状況】 ハンドカウンタによる計測(大型車、小型車の2車種分類)とする。	【地下駐車場の状況】 ハンドカウンタによる計測(大型車、小型車の2車種分類)とする。 排出口諸元は、現地調査（写真撮影等）及び関連資料の整理による方法とする。	【熱源施設の状況】 関連資料（施設の種類、諸元等）の整理による方法とする。	
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。			

注) 熱源施設の稼働に伴う二酸化窒素の大気中における濃度は、寄与濃度及び寄与率が小さく、かつ、予測・評価結果は環境基準を下回っていることから、予測条件とした熱源施設の稼働状況及び熱源施設排気口における窒素酸化物濃度(関連資料)に基づき推定する。





5.2 土壌

(1) 東京 2020 大会の大会開催前

1) 調査事項

調査事項は、表 5.2-1 に示すとおりである。

表 5.2-1 調査事項(東京 2020 大会の開催前)

区 分	調査事項
予測した事項	・土壌汚染物質(濃度、状況等)の変化の程度 ・地下水及び大気への影響の可能性の有無
予測条件の状況	・掘削工事の実施状況
ミティゲーションの実施状況	・土壌汚染対策法第 4 条及び環境確保条例第117条に基づく手続き、調査を実施した。 ・土壌汚染状況調査の結果、汚染土壌の存在が確認されたため、土壌汚染対策法及び環境確保条例に基づき、適切な土壌汚染対策を実施した。 ・今後、工事中に土壌汚染が新たに確認された場合は、速やかに土壌汚染対策を実施する。なお、土壌汚染対策を実施した場合には、その内容をフォローアップ報告書において明らかにする。

2) 調査地域

調査地域は、計画地とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.2-2 に示すとおりである。

表 5.2-2 調査手法(東京 2020 大会の開催前)

調査事項		土壌汚染物質(濃度、状況等)の変化の程度 地下水及び大気への影響の可能性の有無
調査時点		掘削工事を行う時点とする。
調査期間	予測した事項	掘削工事中の適宜とする。
	予測条件の状況	掘削工事中の適宜とする。
	ミティゲーションの実施状況	掘削工事中の適宜とする。
調査地点	予測した事項	計画地とする。
	予測条件の状況	計画地とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地とする。
調査手法	予測した事項	関連資料の整理による方法とする。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。

(2) 東京 2020 大会の大会開催後

1) 調査事項

調査事項は、表 5.2-3 に示すとおりである。

表 5.2-3 調査事項(東京 2020 大会の開催後)

区 分	調査事項
予測した事項	・ 土壌汚染物質(濃度、状況等)の変化の程度 ・ 地下水及び大気への影響の可能性の有無
予測条件の状況	・ 施設の用途
ミティゲーションの実施状況	—

2) 調査地域

調査地域は、計画地とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.2-4 に示すとおりである。

表 5.2-4 調査手法(東京 2020 大会の開催後)

調査事項		土壌汚染物質(濃度、状況等)の変化の程度 地下水及び大気への影響の可能性の有無
調査時点		施設の供用が開始され、事業活動が通常の状態に達した時点とする。
調査期間	予測した事項	供用開始後の適宜とする。
	予測条件の状況	供用開始後の適宜とする。
	ミティゲーションの実施状況	供用開始後の適宜とする。
調査地点	予測した事項	計画地とする。
	予測条件の状況	計画地とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地とする。
調査手法	予測した事項	関連資料の整理による方法とする。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	—

5.3 生物の生育・生息基盤

(1) 東京 2020 大会の大会開催前

1) 調査事項

調査事項は、表 5.3-1 に示すとおりである。

表 5.3-1 調査事項(東京 2020 大会の開催前)

区 分	調査事項
予測した事項	・生物・生態系の賦存地の改変の程度 ・新たな生物の生育・生息基盤の創出の有無並びにその程度
予測条件の状況	・既存緑地の改変の程度 ・植栽基盤（土壌）の状況 ・緑化計画
ミティゲーションの実施状況	・施工期間中の敷地内は殆どが作業ヤードとなるため既存樹の現位置での残置は困難な状況であるが、樹木調査の結果に従って移植に適合する樹木は極力場外で仮養生を行い、新国立競技場（オリンピックスタジアム）の緑化樹として活用する計画としている。 ・既存樹移植により現状の植物相及び植物群落の保全を図るとともに、地上部緑化等により約25,000m²の緑化を行う計画としている。 ・樹種は、計画地の潜在自然植生の構成種を中心に選択するとともに、既存樹木を保存、移植利用を積極的に行い、周辺のみどりの景観との調和を図った植栽計画としている。また、植栽により将来的に大きくボリュームある緑の創出を図る計画としている。 ・計画地内に整備する人工地盤上には、既存樹のうち活着の良い落葉樹を中心として移植する計画としている。 ・既存樹木のうち、計画地北側のマテバシイを保存する計画としている。 ・聖徳記念絵画館外周などのまとまった緑に隣接する計画地東・北側には階層構造の樹林構成の緑地を創出し、隣接する緑との連続性を確保する計画としている。 ・透水性や硬度が適正かつ十分な植栽基盤（土壌）の必要な厚みを確保することを検討する計画としている。 ・生物・生態系の賦存地の状況については、フォローアップ調査で確認する。

2) 調査地域

調査地域は、計画地とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.3-2 に示すとおりである。

表 5.3-2 調査手法(東京 2020 大会の開催前)

調査事項		生物・生態系の賦存地の改変の程度 新たな生物の生育・生息基盤の創出の有無並びにその程度
調査時点		工事の終了後とする。
調査期間	予測した事項	工事終了後の春季～夏季とする。
	予測条件の状況	工事終了後の春季～夏季とする。
	ミティゲーションの実施状況	工事終了後の適宜とする。
調査地点	予測した事項	計画地とする。
	予測条件の状況	計画地とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地とする。
調査手法	予測した事項	任意踏査による植生の状況を整理する方法とする。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。

(2) 東京 2020 大会の大会開催後

1) 調査事項

調査事項は、表 5.3-3 に示すとおりである。

表 5.3-3 調査事項(東京 2020 大会の開催後)

区 分	調査事項
予測した事項	・生物・生態系の賦存地の改変の程度 ・新たな生物の生育・生息基盤の創出の有無並びにその程度
予測条件の状況	・既存緑地の改変の程度 ・植栽基盤（土壌）の状況 ・緑化計画
ミティゲーションの実施状況	・施工期間中の敷地内は殆どが作業ヤードとなるため既存樹の現位置での残置は困難な状況であるが、樹木調査の結果に従って移植に適合する樹木は極力場外で仮養生を行い、新国立競技場（オリンピックスタジアム）の緑化樹として活用する計画としている。 ・既存樹移植により現状の植物相及び植物群落の保全を図るとともに、地上部緑化等により約25,000m²の緑化を行う計画としている。 ・樹種は、計画地の潜在自然植生の構成種を中心に選択するとともに、既存樹木を保存、移植利用を積極的に行い、周辺のみどりの景観との調和を図った植栽計画としている。また、植栽により将来的に大きくボリュームある緑の創出を図る計画としている。 ・計画地内に整備する人工地盤上には、既存樹のうち活着の良い落葉樹を中心として移植する計画としている。 ・既存樹木のうち、計画地北側のマテバシイを保存する計画としている。 ・聖徳記念絵画館外周などのまとまった緑に隣接する計画地東・北側には階層構造の樹林構成の緑地を創出し、隣接する緑との連続性を確保する計画としている。 ・透水性や硬度が適正かつ十分な植栽基盤（土壌）の必要な厚みを確保することを検討する計画としている。 ・生物・生態系の賦存地の状況については、フォローアップ調査で確認する。

2) 調査地域

調査地域は、計画地とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.3-4 に示すとおりである。

表 5.3-4 調査手法(東京 2020 大会の開催後)

調査事項		生物・生態系の賦存地の改変の程度 新たな生物の生育・生息基盤の創出の有無並びにその程度
調査時点		施設の供用が開始され、事業活動が通常の状態に達した時点とする。
調査期間	予測した事項	供用開始後の春季～夏季とする。
	予測条件の状況	供用開始後の春季～夏季とする。
	ミティゲーションの実施状況	供用開始後の適宜とする。
調査地点	予測した事項	計画地とする。
	予測条件の状況	計画地とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地とする。
調査手法	予測した事項	任意踏査による植生の状況を整理する方法とする。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。

5.4 水循環

(1) 東京 2020 大会の大会開催前

1) 調査事項

調査事項は、表 5.4-1 に示すとおりである。

表 5.4-1 調査事項(東京 2020 大会の開催前)

区 分	調査事項
予測した事項	- 地下水涵養能の変化の程度 - 地下水の水位及び流動の変化の程度
予測条件の状況	掘削工事の実施状況
ミティゲーションの実施状況	- 掘削工事に当たっては、掘削範囲の周囲に山留壁を設置する。山留壁には、剛性及び遮水性の高いSMWを採用する計画としている。 - 地下水位の低下（特に急激な変化）が確認された場合には、工事の内容、降雨の状況等を踏まえ、速やかにその原因を究明し、対応策を講じる計画としている。 - また、ディープウェル工法による地下水排水に当たっては、地下水揚水量の適正な管理を行い、必要最小限とする計画としている。 - 必要に応じて、地下水位のモニタリングを実施するとともに、リチャージウェル工法の適応性を検討する計画としている。地下水位のモニタリングを実施した際は、その結果をフォローアップ調査等で報告する。 - 緑地における蒸散効果により、ヒートアイランド対策にも寄与する計画としている。

2) 調査地域

調査地域は、計画地とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.4-2 に示すとおりである。

表 5.4-2 調査手法(東京 2020 大会の開催前)

調査事項		地下水涵養能の変化の程度 地下水の水位及び流動の変化の程度
調査時点		掘削工事を行う時点とする。
調査期間	予測した事項	掘削工事中の適宜とする。
	予測条件の状況	掘削工事中の適宜とする。
	ミティゲーションの実施状況	掘削工事中の適宜とする。
調査地点	予測した事項	計画地とする。
	予測条件の状況	計画地とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地とする。
調査手法	予測した事項	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。

(2) 東京 2020 大会の大会開催後

1) 調査事項

調査事項は、表 5.4-3 に示すとおりである。

表 5.4-3 調査事項(東京 2020 大会の開催後)

区 分	調査事項
予測した事項	・地下水涵養能の変化の程度 ・地下水の水位及び流動の変化の程度
予測条件の状況	・雨水流出抑制対策の状況 ・地下構造物の状況
ミティゲーションの実施状況	・計画地の「大地の杜」の東側の自然地盤部分には、浸透トレンチ等を設置することにより地下水涵養能の確保を図る計画としている。また、計画地西側のペデストリアンデッキ下部の「せせらぎ」(勾配約 1%) についても、降雨時に水が流れ、雨水が地下浸透する計画としている。 ・雨水流出抑制計画書を新宿区に提出し、浸透と貯留による方法で抑制対策を行う計画としている。 ・水の有効利用促進要綱に基づき、雑用水利用・雨水浸透計画書を提出する。雑用水利用施設及び雨水浸透施設の計画、構造、管理等については、関係法令等の規定に従い適正に行う計画としている。 ・植栽散水への水源として計画地の「大地の杜」の東側 1 箇所(位置は検討中)に井戸を設置(取水深度: 約 100m、揚水量: 平均 10m³/日、最大 20m³/日)し、揚水量及び掘削深さの制限内の周辺の水環境に悪影響を与えない範囲で井水を使用する計画としている。散水された水は、浸透し、再び地下へと循環させる計画としている。 ・浸透トレンチ等については、定期的に点検を行い、その機能の維持・回復を図る計画としている。 ・雨水浸透施設の設置に際しては、地下水涵養能が十分に発揮されるよう、適切な配置を検討する計画としている。 ・雨水は、植栽・芝散水に用いる計画としている。また、施設内で利用した排水を処理した中水は、トイレ洗浄水に用いる計画としている。

2) 調査地域

調査地域は、計画地とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.4-4 に示すとおりである。

表 5.4-4 調査手法(東京 2020 大会の開催後)

調査事項		地下水涵養能の変化の程度 地下水の水位及び流動の変化の程度
調査時点		施設の供用が開始され、事業活動が通常の状態に達した時点とする。
調査期間	予測した事項	供用開始後の適宜とする。
	予測条件の状況	供用開始後の適宜とする。
	ミティゲーションの実施状況	供用開始後の適宜とする。
調査地点	予測した事項	計画地とする。
	予測条件の状況	計画地とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地とする。
調査手法	予測した事項	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。

5.5 生物・生態系

(1) 東京 2020 大会の大会開催前

1) 調査事項

調査事項は、表 5.5-1 に示すとおりである。

表 5.5-1 調査事項(東京 2020 大会の開催前)

区 分	調査事項
予測した事項	・陸上植物の植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度 ・陸上動物の動物相及び動物群集の変化の内容及びその程度 ・生育・生息環境の変化の内容及びその程度 ・生態系の変化の内容及びその程度
予測条件の状況	・既存緑地の改変の程度 ・緑化計画
ミティゲーションの実施状況	・計画地北側のマテバシイ及び計画地南西、南側の既存樹のヒマラヤスギ、ケヤキ、イチョウ、クスノキを保存する計画としている。 ・新宿区指定天然記念物のシイの移植に当たっては、環境変化の影響が小さくなるよう移植先などに十分配慮するとともに、移植先での管理計画等を定め適切な管理を行う計画としている。 ・施工期間中の敷地内は殆どが作業ヤードとなるため既存樹の現位置での残置は困難な状況であるが、樹木調査の結果に従って移植に適合する樹木は極力場外で仮養生を行い、新国立競技場（オリンピックスタジアム）の緑化樹として活用する計画としている。 ・既存樹移植により現状の植物相及び植物群落の保全を図るとともに、地上部緑化等により約25,000m²の緑化を行う計画としている。 ・樹種は、計画地の潜在自然植生の構成種を中心に選択するとともに、既存樹木を保存、移植利用を積極的に行い、周辺のみどりの景観との調和を図った植栽計画としている。また、植栽により将来的に大きくボリュームある緑の創出を図る計画としている。 ・計画地内に整備する人工地盤上には、既存樹のうち活着の良い落葉樹を中心に移植する計画としている。 ・透水性や硬度が適正かつ十分な植栽基盤（土壌）の必要な厚みを確保することを検討する計画としている。 ・花がら摘み、つるの誘引、スポット灌水、花後の施肥、枯枝整理、支柱調整を行い、季節感や原風景のおおらかさなど特徴ある風景をつくる。 ・陸上植物、陸上動物及び生育・生息環境、生態系への影響の程度は不確実性を伴うことから、フォローアップ調査により事業の実施による影響を確認し、必要に応じて一層の環境保全措置を講じるとともに、その内容をフォローアップ報告書において明らかにする。

2) 調査地域

調査地域は、計画地及びその周辺地域とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.5-2 に示すとおりである。

表 5.5-2 調査手法(東京 2020 大会の開催前)

調査事項		陸上植物の植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度 陸上動物の動物相及び動物群集の変化の内容及びその程度 生育・生息環境の変化の内容及びその程度 生態系の変化の内容及びその程度
調査時点		工事中及び工事終了後の適宜とする。
調査期間	予測した事項	工事終了後の春季～夏季とする。
	予測条件の状況	工事終了後の春季～夏季とする。
	ミティゲーションの実施状況	工事中及び工事終了後の適宜とする。
調査地点	予測した事項	計画地及びその周辺とする。
	予測条件の状況	計画地及びその周辺とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地及びその周辺とする。
調査手法	予測した事項	任意踏査による植生の状況を整理する方法とする。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。

(2) 東京 2020 大会の大会開催後

1) 調査事項

調査事項は、表 5.5-3 に示すとおりである。

表 5.5-3 調査事項(東京 2020 大会の開催後)

区 分	調査事項
予測した事項	・陸上植物の植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度 ・陸上動物の動物相及び動物群集の変化の内容及びその程度 ・生育・生息環境の変化の内容及びその程度 ・生態系の変化の内容及びその程度
予測条件の状況	・既存緑地の改変の程度 ・緑化計画
ミティゲーションの実施状況	・計画地北側のマテバシイ及び計画地南西、南側の既存樹のヒマラヤスギ、ケヤキ、イチョウ、クスノキを保存する計画としている。 ・新宿区指定天然記念物のシイの移植に当たっては、環境変化の影響が小さくなるよう移植先などに十分配慮するとともに、移植先での管理計画等を定め適切な管理を行う計画としている。 ・既存樹移植により現状の植物相及び植物群落の保全を図るとともに、地上部緑化等により約25,000m²の緑化を行う計画としている。 ・樹種は、計画地の潜在自然植生の構成種を中心に選択するとともに、既存樹木を保存、移植利用を積極的に行い、周辺のみどりの景観との調和を図った植栽計画としている。また、植栽により将来的に大きくボリュームある緑の創出を図る計画としている。 ・計画地内に整備する人工地盤上には、既存樹のうち活着の良い落葉樹を中心に移植する計画としている。 ・透水性や硬度が適正かつ十分な植栽基盤（土壌）の必要な厚みを確保することを検討する計画としている。 ・花がら摘み、つるの誘引、スポット灌水、花後の施肥、枯枝整理、支柱調整を行い、季節感や原風景のおおらかさなど特徴ある風景をつくる。 ・植栽後の樹木の状況（植栽状況、生育状況等）について確認するとともに、維持管理計画等を定めて適性な管理を実施し、必要に応じて適切な追加対策を講じる計画としている。 ・陸上植物、陸上動物及び生育・生息環境、生態系への影響の程度は不確実性を伴うことから、フォローアップ調査により事業の実施による影響を確認し、必要に応じて一層の環境保全措置を講じるとともに、その内容をフォローアップ報告書において明らかにする。

2) 調査地域

調査地域は、計画地及びその周辺地域とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.5-4 に示すとおりである。

表 5.5-4 調査手法(東京 2020 大会の開催後)

調査事項		陸上植物の植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度 陸上動物の動物相及び動物群集の変化の内容及びその程度 生育・生息環境の変化の内容及びその程度 生態系の変化の内容及びその程度
調査時点		施設の供用が開始され、事業活動が通常の状態に達した時点とする。
調査期間	予測した事項	供用開始後の春季～夏季とする。
	予測条件の状況	供用開始後の春季～夏季とする。
	ミティゲーションの実施状況	供用開始後の適宜とする。
調査地点	予測した事項	計画地及びその周辺とする。
	予測条件の状況	計画地及びその周辺とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地及びその周辺とする。
調査手法	予測した事項	任意踏査による植生の状況を整理する方法とする。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。

5.6 緑

(1) 東京 2020 大会の大会開催前

1) 調査事項

調査事項は、表 5.6-1 に示すとおりである。

表 5.6-1 調査事項(東京 2020 大会の開催前)

区 分	調査事項
予測した事項	・植栽内容（植栽基盤など）の変化の程度 ・緑の量（緑被率や緑化面積など）の変化の程度
予測条件の状況	・既存緑地の改変の程度 ・緑化計画
ミティゲーションの実施状況	・計画地北側のマテバシイ及び計画地南西、南側の既存樹のヒマラヤスギ、ケヤキ、イチチョウ、クスノキを保存する計画としている。 ・新宿区指定天然記念物のシイの移植に当たっては、環境変化の影響が小さくなるよう移植先などに十分配慮するとともに、移植先での管理計画等を定め適切な管理を行う計画としている。 ・施工期間中の敷地内は殆どが作業ヤードとなるため既存樹の現位置での残置は困難な状況であるが、樹木調査の結果に従って移植に適合する樹木は極力場外で仮養生を行い、新国立競技場（オリンピックスタジアム）の緑化樹として活用する計画としている。 ・既存樹移植により現状の植物相及び植物群落の保全を図るとともに、地上部緑化等により約25,000m²の緑化を行う計画としている。 ・樹種は、計画地の潜在自然植生の構成種を中心に選択するとともに、既存樹木を保存、移植利用を積極的に行い、周辺のみどりの景観との調和を図った植栽計画としている。また、大地に植栽することで将来的に大きくボリュームある杜の創出を図る計画としている。 ・計画地内に整備する人工地盤上には、既存樹のうち活着の良い落葉樹を中心に移植する計画としている。 ・聖徳記念絵画館外周などのまとまった緑に隣接する計画地東・北側は階層構造の樹林構成の緑地とし隣接する緑との連続する緑を創出、広いオープンスペースの南側は、大地に大樹となる樹木を植栽し大きな緑が人を迎え入れる空間を創出、街に隣接する西側は渋谷川の記憶の継承と親しみのある里庭の景観を創出する計画としている。 ・透水性や硬度が適正かつ十分な植栽基盤（土壌）の必要な厚みを確保する計画としている。 ・花がら摘み、つるの誘引、スポット灌水、花後の施肥、枯枝整理、支柱調整を行い、季節感や原風景のおおらかさなど特徴ある風景をつくる計画としている。

2) 調査地域

調査地域は、計画地とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.6-2 に示すとおりである。

表 5.6-2 調査手法(東京 2020 大会の開催前)

調査事項		植栽内容（植栽基盤など）の変化の程度 緑の量（緑被率や緑化面積など）の変化の程度
調査時点		工事中及び工事終了後の適宜とする。
調査期間	予測した事項	工事終了後の春季～夏季とする。
	予測条件の状況	工事終了後の春季～夏季とする。
	ミティゲーションの実施状況	工事中及び工事終了後の適宜とする。
調査地点	予測した事項	計画地とする。
	予測条件の状況	計画地とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地とする。
調査手法	予測した事項	任意踏査による植生の状況を整理する方法とする。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。

(2) 東京 2020 大会の大会開催後

1) 調査事項

調査事項は、表 5.6-3 に示すとおりである。

表 5.6-3 調査事項(東京 2020 大会の開催後)

区 分	調査事項
予測した事項	・植栽内容（植栽基盤など）の変化の程度 ・緑の量（緑被率や緑化面積など）の変化の程度
予測条件の状況	・既存緑地の改変の程度 ・緑化計画
ミティゲーションの実施状況	・計画地北側のマテバシイ及び計画地南西、南側の既存樹のヒマラヤスギ、ケヤキ、イチチョウ、クスノキを保存する計画としている。 ・新宿区指定天然記念物のシイの移植に当たっては、環境変化の影響が小さくなるよう移植先などに十分配慮するとともに、移植先での管理計画等を定め適切な管理を行う計画としている。 ・既存樹移植により現状の植物相及び植物群落の保全を図るとともに、地上部緑化等により約25,000m²の緑化を行う計画としている。 ・樹種は、計画地の潜在自然植生の構成種を中心に選択するとともに、既存樹木を保存、移植利用を積極的に行い、周辺のみどりの景観との調和を図った植栽計画としている。また、大地に植栽することで将来的に大きくボリュームある杜の創出を図る計画としている。 ・計画地内に整備する人工地盤上には、既存樹のうち活着の良い落葉樹を中心に移植する計画としている。 ・聖徳記念絵画館外周などのまとまった緑に隣接する計画地東・北側は階層構造の樹林構成の緑地とし隣接する緑との連続する緑を創出、広いオープンスペースの南側は、大地に大樹となる樹木を植栽し大きな緑が人を迎え入れる空間を創出、街に隣接する西側は渋谷川の記憶の継承と親しみのある里庭の景観を創出する計画としている。 ・透水性や硬度が適正かつ十分な植栽基盤（土壌）の必要な厚みを確保する計画としている。 ・植栽後の樹木の状況（植栽状況、生育状況等）、植栽散水、剪定、施肥等の維持管理の実施状況について確認し、必要に応じて適切な追加対策を講じることにより、樹木の育成と維持管理に努める計画としている。 ・花がら摘み、つるの誘引、スポット灌水、花後の施肥、枯枝整理、支柱調整を行い、季節感や原風景のおおらかさなど特徴ある風景をつくる計画としている。

2) 調査地域

調査地域は、計画地とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.6-4 に示すとおりである。

表 5.6-4 調査手法(東京 2020 大会の開催後)

調査事項		植栽内容（植栽基盤など）の変化の程度 緑の量（緑被率や緑化面積など）の変化の程度
調査時点		施設の供用が開始され、事業活動が通常の状態に達した時点とする。
調査期間	予測した事項	供用開始後の春季～夏季とする。
	予測条件の状況	供用開始後の春季～夏季とする。
	ミティゲーションの実施状況	供用開始後の適宜とする。
調査地点	予測した事項	計画地とする。
	予測条件の状況	計画地とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地とする。
調査手法	予測した事項	任意踏査による植生の状況を整理する方法とする。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。

5.7 騒音・振動

(1) 東京 2020 大会の大会開催前

1) 調査事項

調査事項は、表 5.7-1 に示すとおりである。

表 5.7-1 調査事項(東京 2020 大会の大会開催前)

区 分	調査事項
予測した事項	・ 工事用車両の走行に伴う道路交通騒音 ・ 工事用車両の走行に伴う道路交通振動 ・ 建設機械の稼働に伴う騒音 ・ 建設機械の稼働に伴う振動
予測条件の状況	・ 工事用車両の状況(種類、台数、時間帯) ・ 一般車両の状況(種類、台数、時間帯) ・ 建設機械の稼働状況(種類、台数、規格、稼働時間、稼働位置)
ミティゲーションの実施状況	[工事用車両に対するミティゲーション] ・ 規制速度を遵守する計画としている。 ・ 低公害型の工事用車両を極力採用し、不要なアイドリングの防止を徹底する計画である。 ・ 資材の搬出入に際しては、走行ルートを検討、安全走行等により、騒音及び振動の低減に努める計画としている。 [建設機械に対するミティゲーション] ・ 低騒音型建設機械の採用に努める計画としている。 ・ 仮囲い(高さ3m)を設置する計画としている。 ・ 建設機械の集中稼働を行わないよう、建設機械の効率的稼働に努める計画としている。 ・ 作業時間及び作業手順は、周辺に著しい影響を及ぼさないように、事前に工事工程を十分検討する計画としている。 ・ アイドリングストップの提示等を行い、不必要なアイドリングの防止を徹底する計画としている。 ・ 建設機械の稼働にあたっては、不必要な空ぶかし、急発進等の禁止を徹底させる計画としている。 ・ 建設機械は定期的に点検整備を行い、故障や異常の早期発見に努める計画としている。 ・ 騒音・振動の発生を極力少なくするよう、最新の低騒音型建設機械の採用及び低騒音・低振動な施工方法の採用に努める計画としている。 ・ 現場内のパトロールの中で、建設機械による影響を低減するようミティゲーションの実施状況の確認及び指導を行う計画としている。 ・ 建築工事に関する近隣からの相談窓口を設置し、住民からの問い合わせに対しては、迅速かつ適切な対応を行う計画としている。 ・ 上記のミティゲーションについては、その遂行を徹底するよう、施工業者に対して指導を行う計画としている。

2) 調査地域

調査地域は、計画地及びその周辺とする。

3) 調査手法

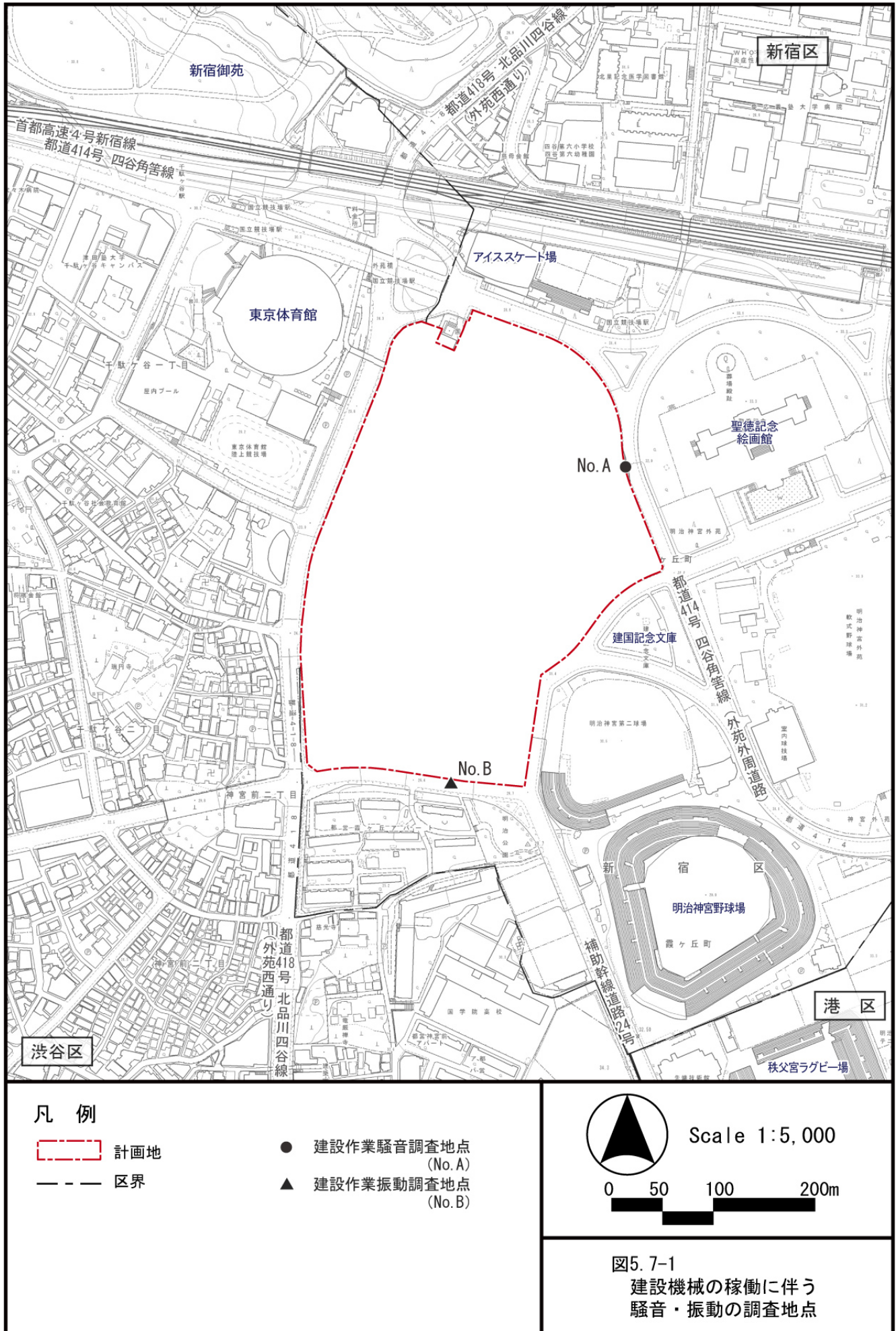
調査手法は、表 5.7-2(1)、(2)に示すとおりである。

表 5.7-2(1) 調査手法(東京 2020 大会の大会開催前)

調査事項		工事用車両の走行に伴う道路交通騒音	工事用車両の走行に伴う道路交通振動
調査時点		工事用車両の走行台数が最大となる時点(工事着工後31か月目)とする。	
調査期間	予測した事項	代表的な1日の内、工事用車両の走行時間及びその前後1時間を含む時間帯とする。	
	予測条件の状況	【工事用車両、一般車両の状況】 「予測した事項」と同時期とする。	
	ミティゲーションの実施状況	工事の施行中の適宜とする。	
調査地点	予測した事項	工事用車両走行ルート上の4地点(図5.1-1 (p.49参照))に示す地点No.1～3、5)とする。	
	予測条件の状況	【工事用車両の状況】 工事用車両の出入口とする。 【一般車両の状況】 工事用車両走行ルート上の4地点(図5.1-1 (p.49参照))に示す地点No.1～3、5)とする。	
	ミティゲーションの実施状況	計画地及びその周辺とする。	
調査手法	予測した事項	「騒音に係る環境基準について」(平成10年9月環境庁告示第64号)に定める方法(JIS Z8731)に準拠し、騒音レベル(等価騒音レベル： L_{Aeq})を測定する。	「振動規制法施行規則」(昭和51年総務省令第58号)に定める測定方法(JIS Z8735)に準拠し、振動レベルの80%レンジの上端値(L_{10})を測定する。
	予測条件の状況	【工事用車両、一般車両の状況】 ハンドカウンタによる計測(大型車、小型車の2車種分類)とする。	
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料(建設作業日報等)の整理による方法とする。	

表 5.7-2(2) 調査手法(東京 2020 大会の大会開催前)

調査事項		建設機械の稼働に伴う建設作業騒音	建設機械の稼働に伴う建設作業振動
調査時点		建設機械の稼働による騒音が最大になると予想される時点(工事着工後10か月目)とする。	建設機械の稼働による振動が最大になると予想される時点(工事着工後3か月目)とする。
調査期間	予測した事項	代表的な1日の内、建設機械の稼働時間を含む時間帯とする。	
	予測条件の状況	「予測した事項」と同時期とする。	
	ミティゲーションの実施状況	工事の施行中の適宜とする。	
調査地点	予測した事項	建設機械の稼働に伴う騒音が最大になると予測される地点(No. A)、建設機械の稼働に伴う振動が最大になると予測される地点(No. B)とする(図5.7-1参照)。	
	予測条件の状況	計画地とする。	
	ミティゲーションの実施状況	計画地とする。	
調査手法	予測した事項	「都民の健康と安全を確保する環境に関する条例施行規則」に定める測定方法(JIS Z8731)及び「特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準」(昭和43年厚生・建設省告示第1号)に準拠し、騒音レベルの90%レンジの上端値(L_5)を測定する。	「都民の健康と安全を確保する条例施行規則」に定める測定方法(JIS Z8735)及び「振動規制法施行規則」(昭和51年総務省令第58号)に準拠し、振動レベルの80%レンジの上端値(L_{10})を測定する。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料(建設作業日報等)の整理による方法とする。	
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料(建設作業日報等)の整理による方法とする。	



5.8 日影

(1) 東京 2020 大会の開催前

1) 調査事項

調査事項は、表 5.8-1 に示すとおりである。

表 5.8-1 調査事項(東京 2020 大会の開催前)

区 分	調査事項
予測した事項	・日影が生じることによる影響に特に配慮すべき施設等における日影となる時刻、時間数等の日影の状況の変化の程度 ・冬至日における日影の範囲、日影となる時刻、時間数等の日影の状況の変化の程度 ・日照障害が生じる又は改善する住宅戸数及び既存植物
予測条件の状況	・計画建築物の状況(位置、形状、高さ等)
ミティゲーションの実施状況	・計画地北側への日影の影響を低減するため、計画建築物は敷地境界から一定の距離をセットバックし、建物高さを約50mとする計画としている。 ・明治神宮外苑等の日影が及ぶ範囲にある樹木については、日影の状況をフォローアップ調査で確認する。

2) 調査地域

調査地域は、計画地及びその周辺とする。

3) 調査手法

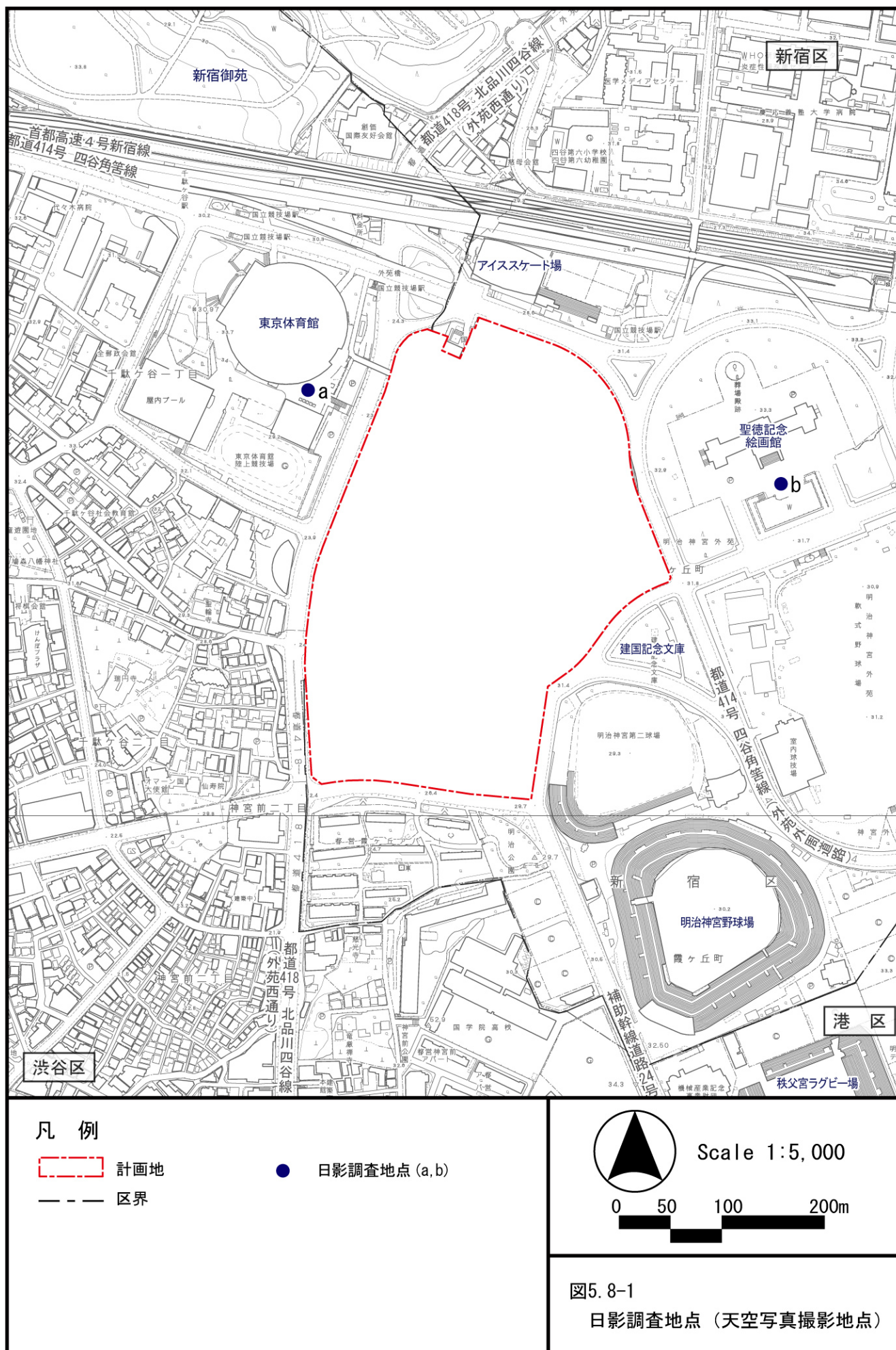
調査手法は、表 5.8-2 に示すとおりである。

表 5.8-2 調査手法(東京 2020 大会の開催前)

調査事項		日影が生じることによる影響に特に配慮すべき施設等における日影となる時刻、時間数等の日影の状況の変化の程度	冬至日における日影の範囲、日影となる時刻、時間数等の日影の状況の変化の程度	日照障害が生じる又は改善する住宅戸数及び既存植物	
調査時点		施設完成後とする。			
調査期間	予測した事項	施設完成後とする。			
	予測条件の状況	施設完成後とする。			
	ミティゲーションの実施状況	施設完成後とする。			
調査地点	予測した事項	計画地及びその周辺とする。	予測地点と同様の2地点(図5.8-1に示す地点a, b)とする。		
	予測条件の状況	計画地及びその周辺とする。			
	ミティゲーションの実施状況	計画地及びその周辺とする。			
調査手法	予測した事項	現地調査(写真撮影)及び評価書の予測結果と比較する方法とする。			
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影)及び関連資料の整理による方法とする。			
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影)及び関連資料の整理による方法とする。			

(2) 東京 2020 大会の開催後

東京 2020 大会開催後における計画建築物による日影の状況は、開催前と同様であるため、調査は開催前に兼ねることとする。



5.9 景観

(1) 東京 2020 大会の開催前

1) 調査事項

調査事項は、表 5.9-1 に示すとおりである。

表 5.9-1 調査事項(東京 2020 大会の開催前)

区 分	調査事項
予測した事項	・ 主要な景観の構成要素の改変の程度及びその改変による地域景観の特性の変化の程度 ・ 景観形成特別地区の景観阻害又は貢献の程度 ・ 代表的な眺望地点からの眺望の変化の程度 ・ 貴重な景勝地の消滅の有無又は改変の程度 ・ 圧迫感の変化の程度 ・ 緑視率の変化の程度 ・ 景観阻害要因の変化の程度
予測条件の状況	・ 計画建築物の状況(配置、形状、高さ等) ・ 緑化計画
ミティゲーションの実施状況	・ 最大 8 万席となる観客席をコンパクトに配置し、フラットな屋根架構により建物高さを約 50m とし、周辺の景観に調和する計画としている。 ・ 最外周柱の最上部を内側に傾斜させて、周辺の圧迫感を軽減する計画としている。 ・ 日本の伝統的な建築を想起させる、連続する軒庇の水平ラインと深い陰影によって、周辺の木々と調和した外観とする計画としている。 ・ 屋根の庇や軒庇の見上げ部は全周を連続した縦格子で仕上げる計画としている。外壁を「面」ではなく「線」で構成することにより、「和」を想起させる繊細な陰影が周囲の木々に溶け込み、長大な屋根や壁面による圧迫感を軽減させる計画としている。 ・ 軒庇の連続した縦格子により、日本建築の要素である垂木を想起させる外観を形成する計画としている。水平方向にも高さ方向にも展開した「繰り返し」の構成により、日本らしさをより強調する計画としている。 ・ 外周の低層部は水平に伸びる軒庇と鉛直柱の構成とし、軸組によって生まれた、陰影のある印象的な日本らしい外観とする計画としている。 ・ 各軒庇上部にはプランターを配置し、日本の野草など四季を感じることが可能な計画としている。 ・ 「大地の杜」として、周囲の多様なみどりの景観に合わせ、聖徳記念絵画館外周などのまとまった緑に隣接する計画地東・北側は階層構造の樹林構成の緑地とし隣接する緑との連続する緑を創出(「深緑の杜」)、広いオープンスペースの南側は大地に大樹となる樹木を植栽し大きな緑が人を迎え入れる空間を創出(「大樹の里庭」)、街に隣接する西側は渋谷川の記憶の継承と親しみのある里庭の景観を創出(「水辺の里庭」)することで周囲の多様な景観との調和を図る計画としている。計画建築物 5 階には、「大地の杜」と行き来できる「空の杜」として、ススキや彩りある草花、花木を連続させ、計画地の原風景のおおらかさを想起させる空中の庭園を整備する計画としている。 ・ 木の縦格子には国産のスギの規格材を採用する計画としている。設置箇所は軒裏などの雨がかりの少ない部分とし、さらに加圧注入処理(K3仕様)とし、耐久性を高め美観を維持する計画としている。 ・ 外周に壁がないことで、日本の気候風土を活かした風通しの良い空間を創出する計画としている。彫の深い軒下は、「木漏れ日」のような陰と緑を望める縁側状の空間を創出する計画としている。 ・ 植栽樹種は、計画地の潜在自然植生や代償植生の構成種を中心に選択するとともに、既存樹木の保存、移植利用を積極的に行い、周辺のみどりの景観との調和を図った植栽計画としている。

2) 調査地域

調査地域は、計画地及びその周辺とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.9-2(1)、(2)に示すとおりである。

表 5.9-2(1) 調査手法(東京 2020 大会の開催前)

調査事項		主要な景観の構成要素の改変の程度及びその改変による地域景観の特性の変化の程度	代表的な眺望地点からの眺望の変化の程度
調査時点		施設完成後とする。	
調査期間	予測した事項	施設完成後とする。	
	予測条件の状況	施設完成後とする。	
	ミティゲーションの実施状況	施設完成後とする。	
調査地点	予測した事項	計画地及びその周辺とする。	予測地点と同様の 9 地点(図5.9-1に示す地点No. 1～9)とする。
	予測条件の状況	計画地及びその周辺とする。	
	ミティゲーションの実施状況	計画地及びその周辺とする。	
調査手法	予測した事項	現地調査(写真撮影)及び評価書の予測結果と比較する方法とする。	
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影)及び関連資料の整理による方法とする。	
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影)及び関連資料の整理による方法とする。	

表 5.9-2(2) 調査手法(東京 2020 大会の開催前)

調査事項		圧迫感の変化の程度	緑視率の変化の程度	景観阻害要因の変化の程度	
調査時点		施設完成後とする。			
調査期間	予測した事項	施設完成後とする。			
	予測条件の状況	施設完成後とする。			
	ミティゲーションの実施状況	施設完成後とする。			
調査地点	予測した事項	予測地点と同様の 4 地点 (図5.9-2に示す地点No. a～d) とする。	予測地点と同様の 9 地点 (図5.9-1に示す地点No. 1～9) とする。		
	予測条件の状況	計画地及びその周辺とする。			
	ミティゲーションの実施状況	計画地及びその周辺とする。			
調査手法	予測した事項	天空写真を撮影し、形態率を算出する方法とする。	現地調査(写真撮影)及び評価書の予測結果と比較する方法とする。		
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影)及び関連資料の整理による方法とする。			
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影)及び関連資料の整理による方法とする。			

(2) 東京 2020 大会の開催後

1) 調査事項

調査事項は、表 5.9-3 に示すとおりである。

表 5.9-3 調査事項(東京 2020 大会の開催後)

区 分	調査事項
予測した事項	・ 主要な景観の構成要素の改変の程度及びその改変による地域景観の特性の変化の程度 ・ 景観形成特別地区の景観阻害又は貢献の程度 ・ 代表的な眺望地点からの眺望の変化の程度 ・ 貴重な景勝地の消滅の有無又は改変の程度 ・ 圧迫感の変化の程度 ・ 緑視率の変化の程度 ・ 景観阻害要因の変化の程度
予測条件の状況	・ 計画建築物の状況(配置、形状、高さ等) ・ 緑化計画
ミティゲーションの実施状況	・ 最大 8 万席となる観客席をコンパクトに配置し、フラットな屋根架構により建物高さを約 50m とし、周辺の景観に調和する計画としている。 ・ 最外周柱の最上部を内側に傾斜させて、周辺の圧迫感を軽減する計画としている。 ・ 日本の伝統的な建築を想起させる、連続する軒庇の水平ラインと深い陰影によって、周辺の木々と調和した外観とする計画としている。 ・ 屋根の庇や軒庇の見上げ部は全周を連続した縦格子で仕上げる計画としている。外壁を「面」ではなく「線」で構成することにより、「和」を想起させる繊細な陰影が周囲の木々に溶け込み、長大な屋根や壁面による圧迫感を軽減させる計画としている。 ・ 軒庇の連続した縦格子により、日本建築の要素である垂木を想起させる外観を形成する計画としている。水平方向にも高さ方向にも展開した「繰り返し」の構成により、日本らしさをより強調する計画としている。 ・ 外周の低層部は水平に伸びる軒庇と鉛直柱の構成とし、軸組によって生まれた、陰影のある印象的な日本らしい外観とする計画としている。 ・ 各軒庇上部にはプランターを配置し、日本の野草など四季を感じることが可能な計画としている。 ・ 「大地の杜」として、周囲の多様なみどりの景観に合わせ、聖徳記念絵画館外周などのまとまった緑に隣接する計画地東・北側は階層構造の樹林構成の緑地とし隣接する緑との連続する緑を創出(「深緑の杜」)、広いオープンスペースの南側は大地に大樹となる樹木を植栽し大きな緑が人を迎え入れる空間を創出(「大樹の里庭」)、街に隣接する西側は渋谷川の記憶の継承と親しみのある里庭の景観を創出(「水辺の里庭」)することで周囲の多様な景観との調和を図る計画としている。計画建築物 5 階には、「大地の杜」と行き来できる「空の杜」として、ススキや彩りある草花、花木を連続させ、計画地の原風景のおおらかさを想起させる空中の庭園を整備する計画としている。 ・ 木の縦格子には国産のスギの規格材を採用する計画としている。設置箇所は軒裏などの雨がかりの少ない部分とし、さらに加圧注入処理(K3仕様)とし、耐久性を高め美観を維持する計画としている。 ・ 外周に壁がないことで、日本の気候風土を活かした風通しの良い空間を創出する計画としている。彫の深い軒下は、「木漏れ日」のような陰と緑を望める縁側状の空間を創出する計画としている。 ・ 植栽樹種は、計画地の潜在自然植生や代償植生の構成種を中心に選択するとともに、既存樹木の保存、移植利用を積極的に行い、周囲のみどりの景観との調和を図った植栽計画としている。 ・ 花がら摘み、つるの誘引、スポット灌水、花後の施肥、枯枝整理、支柱調整を行い、季節感や原風景のおおらかさなど特徴ある風景をつくる。 ・ 緑化植栽後の樹木の状況(植栽状況、生育状況等)、植栽散水、剪定、施肥等の維持管理の実施状況について確認し、必要に応じて適切な追加対策を講じることにより、良好な景観の保持に努める計画としている。また、緑の状況については、フォローアップ調査で確認する。

2) 調査地域

調査地域は、計画地及びその周辺とする。

3) 調査手法

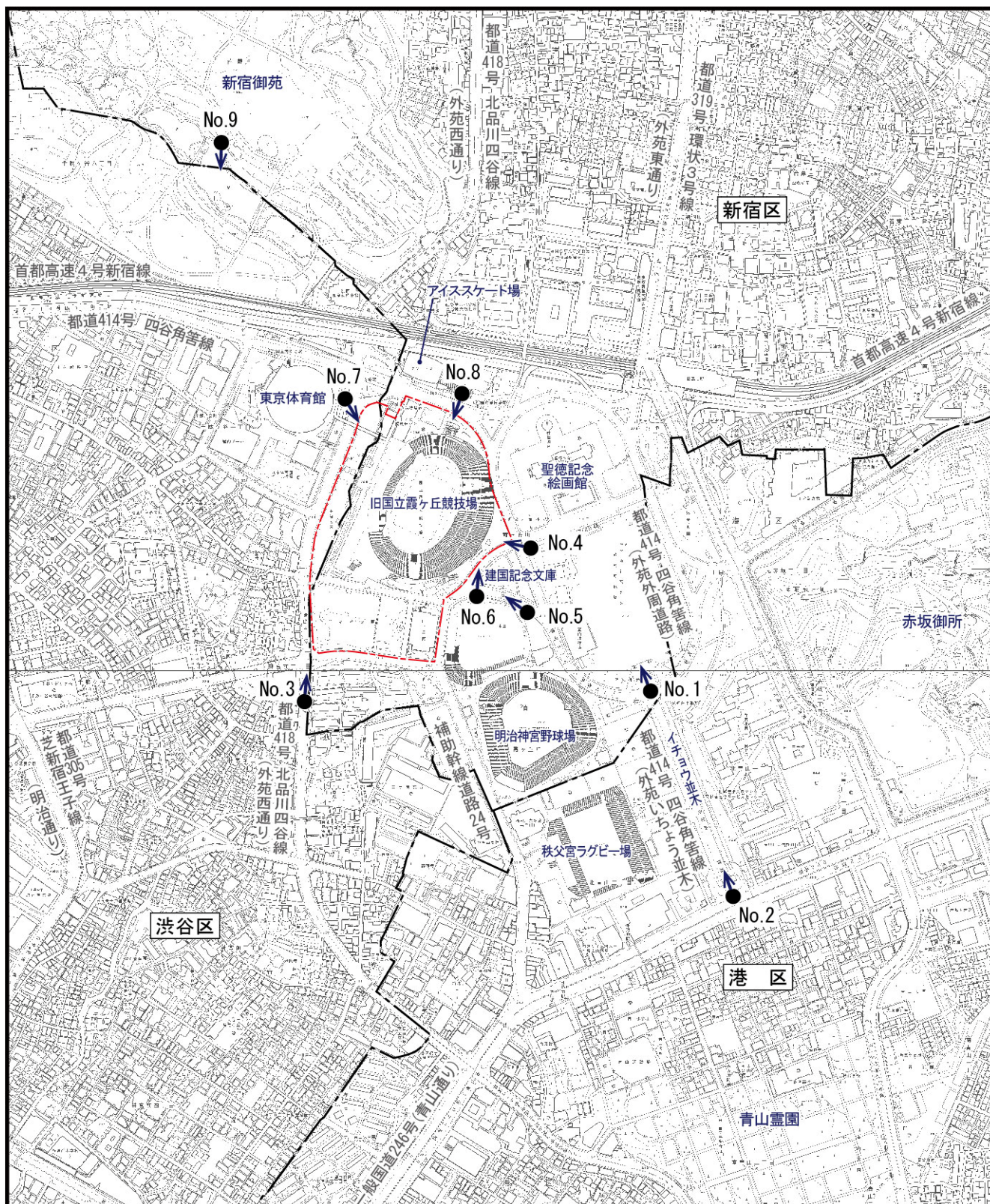
調査手法は、表 5.9-4(1)、(2)に示すとおりである。

表 5.9-4(1) 調査手法(東京 2020 大会の開催後)

調査事項		主要な景観の構成要素の改変の程度及びその改変による地域景観の特性の変化の程度	代表的な眺望地点からの眺望の変化の程度
調査時点		東京2020大会開催後とする。	
調査期間	予測した事項	東京2020大会開催後とする。	
	予測条件の状況	東京2020大会開催後とする。	
	ミティゲーションの実施状況	東京2020大会開催後とする。	
調査地点	予測した事項	計画地及びその周辺とする。	予測地点と同様の9地点(図5.9-1に示す地点No. 1~9)とする。
	予測条件の状況	計画地及びその周辺とする。	
	ミティゲーションの実施状況	計画地及びその周辺とする。	
調査手法	予測した事項	現地調査(写真撮影)及び評価書の予測結果と比較する方法とする。	
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影)及び関連資料の整理による方法とする。	
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影)及び関連資料の整理による方法とする。	

表 5.9-4(2) 調査手法(東京 2020 大会の開催後)

調査事項		圧迫感の変化の程度	緑視率の変化の程度	景観阻害要因の変化の程度	
調査時点		東京2020大会開催後とする。			
調査期間	予測した事項	東京2020大会開催後とする。			
	予測条件の状況	東京2020大会開催後とする。			
	ミティゲーションの実施状況	東京2020大会開催後とする。			
調査地点	予測した事項	予測地点と同様の4地点(図5.9-2に示す地点No. a～d)とする。	予測地点と同様の9地点(図5.9-1に示す地点No. 1～9)とする。		
	予測条件の状況	計画地及びその周辺とする。			
	ミティゲーションの実施状況	計画地及びその周辺とする。			
調査手法	予測した事項	天空写真を撮影し、形態率を算出する方法とする。	現地調査(写真撮影)及び評価書の予測結果と比較する方法とする。		
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影)及び関連資料の整理による方法とする。			
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影)及び関連資料の整理による方法とする。			



凡 例

— — — 計画地
— — — 区界

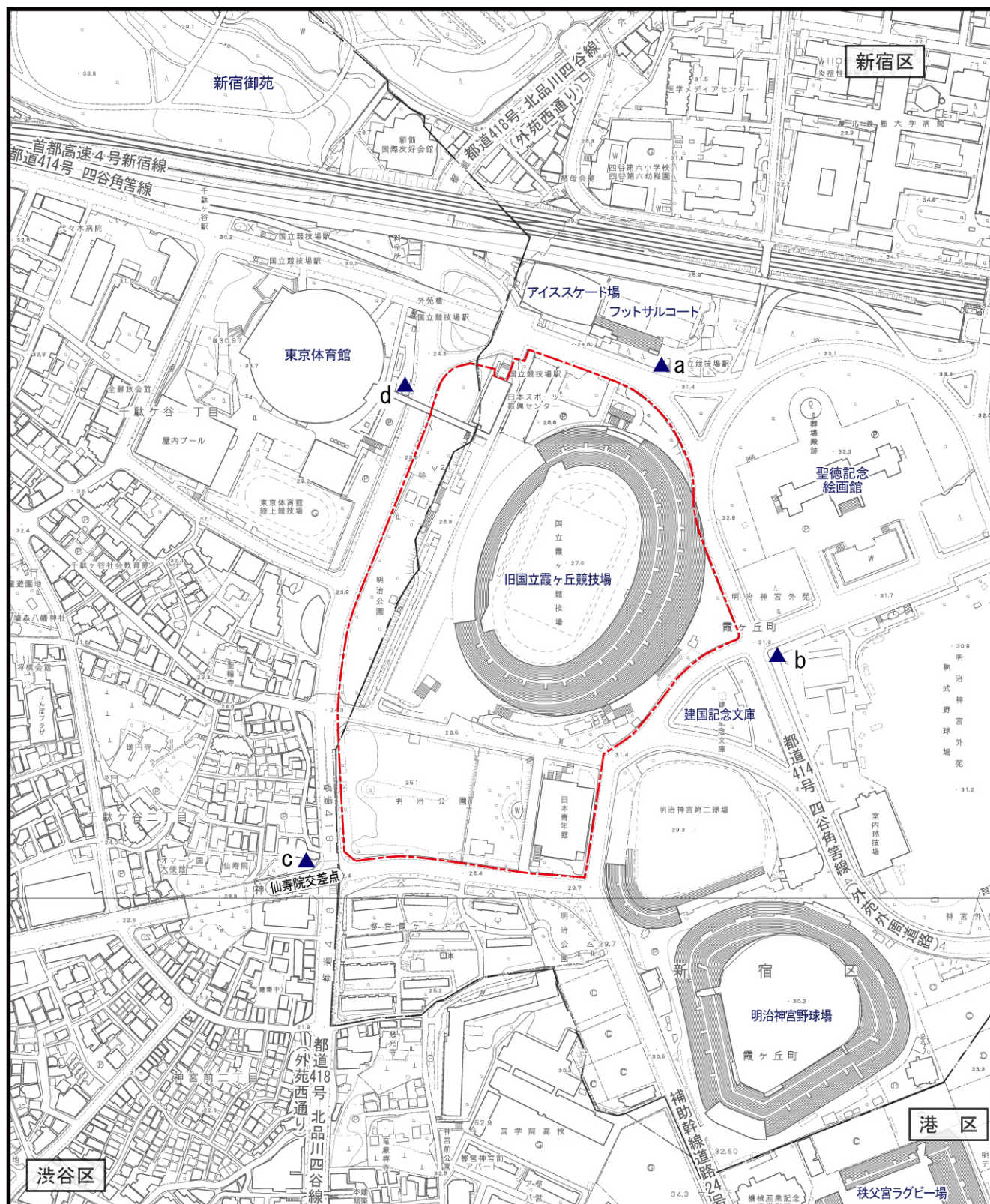
● 景観(眺望景観)調査地点
(No.1~9)
➡ 写真撮影方向



Scale 1:10,000

0 100 200 400m

図 5.9-1
景観調査地点
(代表的な眺望地点及び眺望の状況)



凡 例

 計画地
 区界

▲ 景観（圧迫感）調査地点
(a~d)



Scale 1:5,000

0 50 100 200m

図5.9-2
景観調査地点（圧迫感の状況）

5.10 自然との触れ合い活動の場

(1) 東京 2020 大会の大会開催前

1) 調査事項

調査事項は、表 5.10-1 に示すとおりである。

表 5.10-1 調査事項(東京 2020 大会の開催前)

区 分	調査事項
予測した事項	・自然との触れ合い活動の場の消滅の有無又は改変の程度 ・自然との触れ合い活動の阻害又は促進の程度 ・自然との触れ合い活動の場までの利用経路に与える影響の程度
予測条件の状況	・施設配置計画 ・工事用車両の走行の状況 ・建設機械の稼働状況
ミティゲーションの実施状況	・工事用車両の出入り口には交通整理員を配置する予定とし、周辺の自然との触れ合い活動の場の利用者も含めた一般歩行者の通行に支障を与えないよう配慮する計画としている。 ・工事用車両の集中稼働を行わないよう、可能な限り工事工程の平準化に努める計画としている。 ・工事用車両の走行に当たっては、規制速度の遵守等安全走行の徹底、市街地での待機や違法駐車をすることがないよう、運転者への指導を徹底する。 ・歩行者、自転車、一般車両等の優先の徹底、交差点進入時、右左折時における歩行者、自転車等の安全確認の徹底等の交通安全教育を工事用車両運転者に対して徹底する。 ・1964 年東京オリンピックレガシーである記念作品等については、敷地内に再設置を行う計画としている。 ・明治神宮外苑等の周辺施設管理者との情報共有により、周辺の自然との触れ合い活動の場を含めた情報提供に努める。

2) 調査地域

調査地域は、計画地及びその周辺とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.10-2 に示すとおりである。

表 5.10-2 調査手法(東京 2020 大会の開催前)

調査事項		自然との触れ合い活動の場の消滅の有無又は改変の程度 自然との触れ合い活動の阻害又は促進の程度 自然との触れ合い活動の場までの利用経路に与える影響の程度
調査時点		工事の施行中とする。
調査期間	予測した事項	工事中の適宜とする。
	予測条件の状況	工事中の適宜とする。
	ミティゲーションの実施状況	工事中の適宜とする。
調査地点	予測した事項	計画地及びその周辺とする。
	予測条件の状況	計画地及びその周辺とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地及びその周辺とする。
調査手法	予測した事項	既存資料及び現地調査により、自然との触れ合い活動の状況の整理による方法とする。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。

(2) 東京 2020 大会の大会開催後

1) 調査事項

調査事項は、表 5.10-3 に示すとおりである。

表 5.10-3 調査事項(東京 2020 大会の開催後)

区 分	調査事項
予測した事項	・自然との触れ合い活動の場の消滅の有無又は改変の程度 ・自然との触れ合い活動の阻害又は促進の程度 ・自然との触れ合い活動の場までの利用経路に与える影響の程度
予測条件の状況	・施設配置計画 ・緑化計画
ミティゲーションの実施状況	・計画地にはペDESTリアンデッキを整備し、隣接する東京体育館や計画地南側に新たに整備される公園との立体的な歩行者ネットワークが有効に機能する計画としている。また、既存樹の移植も含めた緑豊かな歩道状空地を整備し、施設利用者、地域住民等が活用できる回遊性が高く、安全で快適な歩行者ネットワークを創出する計画としている。 ・計画建築物 5 階には、計画地内の南北 2 箇所からエスカレーター（1～4 階）及び階段（1～5 階）、またはエレベーターで行き来できる空中庭園「空の柱」として、ススキや彩りある草花、花木を連続させ、計画地の原風景のおおらかさを想起させる空間を整備する計画としている。 ・西側ゾーン 1 階ペDESTリアンデッキには「せせらぎ」により水景を創出し、渋谷川の記憶を継承する計画としている。ペDESTリアンデッキ上部の「せせらぎ」には、モミジ等の植栽により四季を演出し、せせらぎ沿いに水生植物を植栽する等、彩り豊かな里庭として自然と親しむ憩いの空間を創出する計画としている。 ・1964 年東京オリンピックレガシーである記念作品等については、敷地内に再設置を行う計画としている。 ・明治神宮外苑等の周辺施設管理者との情報共有により、周辺の自然との触れ合い活動の場を含めた情報提供に努める。

2) 調査地域

調査地域は、計画地及びその周辺とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.10-4 に示すとおりである。

表 5.10-4 調査手法(東京 2020 大会の開催後)

調査事項		自然との触れ合い活動の場の消滅の有無又は改変の程度 自然との触れ合い活動の阻害又は促進の程度 自然との触れ合い活動の場までの利用経路に与える影響の程度
調査時点		施設の供用が開始され、事業活動が通常の状態に達した時点とする。
調査期間	予測した事項	供用開始後の適宜とする。
	予測条件の状況	供用開始後の適宜とする。
	ミティゲーションの実施状況	供用開始後の適宜とする。
調査地点	予測した事項	計画地及びその周辺とする。
	予測条件の状況	計画地及びその周辺とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地及びその周辺とする。
調査手法	予測した事項	既存資料及び現地調査により、自然との触れ合い活動の状況の整理による方法とする。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。

5.11 歩行者空間の快適性

(1) 東京 2020 大会の開催前

1) 調査事項

調査事項は、表 5.11-1 に示すとおりである。

表 5.11-1 調査事項(東京 2020 大会の開催前)

区 分	調査事項
予測した事項	・緑の程度 ・歩行者が感じる快適性の程度
予測条件の状況	・気象の状況 ・周辺土地利用条件
ミティゲーションの実施状況	・都として、都道の快適性を向上するため、大会会場周辺の既存街路樹について、樹形を大きく仕立てる剪定を計画的に実施していく。 ・都として、その他の都道の街路樹や公園の樹木を適切に維持・管理することにより、夏の強い日差しを遮る木陰を確保するとともに、まとまった緑による気温上昇の抑制効果を高めていくほか、都以外の道路管理者等との連携を図り、より一層の暑さ対策に努める。 ・計画地内は、外構部に緑地、水面、保水性舗装及びウォーターミストの設置等、歩行者空間の暑さ対策について可能な限りの配慮を行う計画としている。

2) 調査地域

調査地域は、計画地及びその周辺とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.11-2 に示すとおりである。

表 5.11-2 調査手法(東京 2020 大会の開催前)

調査事項		緑の程度	歩行者が感じる快適性の程度
調査時点		施設完成後とする。	
調査期間	予測した事項	施設完成後の夏季とする。	
	予測条件の状況	施設完成後の夏季とする。	
	ミティゲーションの実施状況	施設完成後の適宜とする。	
調査地点	予測した事項	公共交通機関から計画地への主要なアクセス経路とする(図5.11-1参照)。	予測地点と同様の公共交通機関から計画地への主要なアクセス経路上における11地点(図5.11-1に示すNo.1～8)とする。
	予測条件の状況	計画地及びその周辺とする。	予測地点と同様の公共交通機関から計画地への主要なアクセス経路上における11地点(図5.11-1に示すNo.1～8)とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地及びその周辺とする。	予測地点と同様の公共交通機関から計画地への主要なアクセス経路上における11地点(図5.11-1に示すNo.1～8)とする。
調査手法	予測した事項	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。	既存資料及び現地調査により、暑さ指数(WBGT)の整理による方法とする。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。	
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。	

(2) 東京 2020 大会の開催後

1) 調査事項

調査事項は、表 5.11-3 に示すとおりである。

表 5.11-3 調査事項(東京 2020 大会の開催後)

区 分	調査事項
予測した事項	・緑の程度 ・歩行者が感じる快適性の程度
予測条件の状況	・気象の状況 ・周辺土地利用条件
ミティゲーションの実施状況	・都として、都道の快適性を向上するため、大会会場周辺の既存街路樹について、樹形を大きく仕立てる剪定を計画的に実施していく。 ・都として、その他の都道の街路樹や公園の樹木を適切に維持・管理することにより、夏の強い日差しを遮る木陰を確保するとともに、まとまった緑による気温上昇の抑制効果を高めていくほか、都以外の道路管理者等との連携を図り、より一層の暑さ対策に努める。 ・計画地内は、外構部に緑地、水面、保水性舗装及びウォーターミストの設置等、歩行者空間の暑さ対策について可能な限りの配慮を行う計画としている。

2) 調査地域

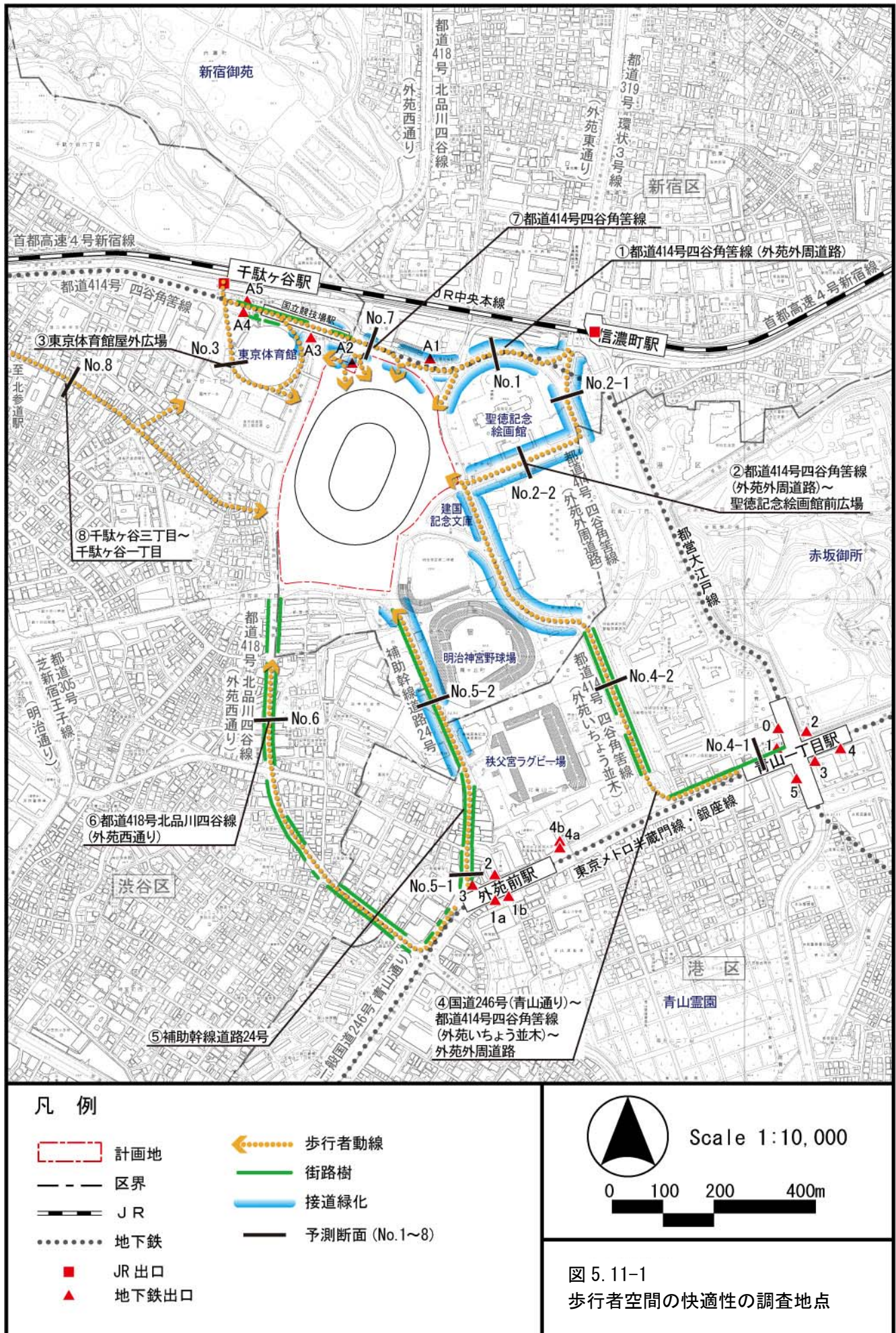
調査地域は、計画地及びその周辺とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.11-4 に示すとおりである。

表 5.11-4 調査手法(東京 2020 大会の開催後)

調査事項		緑の程度	歩行者が感じる快適性の程度
調査時点		施設の供用が開始され、事業活動が通常の状態に達した時点とする。	
調査期間	予測した事項	供用開始後の夏季とする。	
	予測条件の状況	供用開始後の夏季とする。	
	ミティゲーションの実施状況	供用開始後の適宜とする。	
調査地点	予測した事項	公共交通機関から計画地への主要なアクセス経路とする(図5.11-1参照)。	予測地点と同様の公共交通機関から計画地への主要なアクセス経路上における11地点(図5.11-1に示すNo.1～8)とする。
	予測条件の状況	計画地及びその周辺とする。	予測地点と同様の公共交通機関から計画地への主要なアクセス経路上における11地点(図5.11-1に示すNo.1～8)とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地及びその周辺とする。	予測地点と同様の公共交通機関から計画地への主要なアクセス経路上における11地点(図5.11-1に示すNo.1～8)とする。
調査手法	予測した事項	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。	既存資料及び現地調査により、暑さ指数(WBGT)の整理による方法とする。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。	
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。	



5.12 史跡・文化財

(1) 東京 2020 大会の大会開催前

1) 調査事項

調査事項は、表 5.12-1 に示すとおりである。

表 5.12-1 調査事項(東京 2020 大会の開催前)

区 分	調査事項
予測した事項	・文化財等の現状変更の程度及びその周辺の文化財等の損傷等の程度 ・文化財等の周辺の環境の変化の程度 ・埋蔵文化財包蔵地の改変の程度 ・文化財等の保護・保全対策の程度 ・文化財等の回復の程度
予測条件の状況	・埋蔵文化財調査の実施状況 ・移植の実施状況
ミティゲーションの実施状況	・計画地内の指定文化財及び埋蔵文化財包蔵地については、文化財保護法、東京都文化財保護条例、新宿区文化財保護条例及び渋谷区文化財保護条例に基づき、埋蔵文化財発掘調査を実施して、検出された遺構や出土した遺物の記録及び保存を講じている。 ・新宿区指定天然記念物のシイの移植に当たっては、環境変化の影響が小さくなるよう移植先などに十分配慮するとともに、移植先での管理計画等を定め適切な管理を行う計画としている。 ・現状の計画地内には、既往の建築物の解体工事と並行して埋蔵文化財発掘調査を実施している。調査の方法・範囲については都教育委員会、区教育委員会と協議を行った上で確定している。 ・工事の施行中に新たな埋蔵文化財を発見した場合には、文化財保護法に基づき、適正に対処する。

2) 調査地域

調査地域は、計画地とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.12-2 に示すとおりである。

表 5.12-2 調査手法(東京 2020 大会の開催前)

調査事項		文化財等の現状変更の程度及びその周辺の文化財等の損傷等の程度 文化財等の周辺の環境の変化の程度 埋蔵文化財包蔵地の改変の程度 文化財等の保護・保全対策の程度 文化財等の回復の程度
調査時点		工事の施行中とする。
調査期間	予測した事項	工事中の適宜とする。
	予測条件の状況	工事中の適宜とする。
	ミティゲーションの実施状況	工事中の適宜とする。
調査地点	予測した事項	計画地とする。
	予測条件の状況	計画地とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地とする。
調査手法	予測した事項	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。

(2) 東京 2020 大会の大会開催後

1) 調査事項

調査事項は、表 5.12-3 に示すとおりである。

表 5.12-3 調査事項(東京 2020 大会の開催後)

区 分	調査事項
予測した事項	・文化財等の現状変更の程度及びその周辺の文化財等の損傷等の程度 ・文化財等の周辺の環境の変化の程度 ・埋蔵文化財包蔵地の改変の程度 ・文化財等の保護・保全対策の程度 ・文化財等の回復の程度
予測条件の状況	・移植の実施状況
ミティゲーションの実施状況	・新宿区指定天然記念物のシイの移植に当たっては、環境変化の影響が小さくなるよう移植先などに十分配慮するとともに、移植先での管理計画等を定め適切な管理を行う計画としている。

2) 調査地域

調査地域は、計画地とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.12-4 に示すとおりである。

表 5.12-4 調査手法(東京 2020 大会の開催後)

調査事項		文化財等の現状変更の程度及びその周辺の文化財等の損傷等の程度 文化財等の周辺の環境の変化の程度 埋蔵文化財包蔵地の改変の程度 文化財等の保護・保全対策の程度 文化財等の回復の程度
調査時点		施設の供用が開始され、事業活動が通常の状態に達した時点とする。
調査期間	予測した事項	供用開始後の適宜とする。
	予測条件の状況	供用開始後の適宜とする。
	ミティゲーションの実施状況	供用開始後の適宜とする。
調査地点	予測した事項	計画地とする。
	予測条件の状況	計画地とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地とする。
調査手法	予測した事項	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。

5.13 水利用

(1) 東京 2020 大会の開催前

1) 調査事項

調査事項は、表 5.13-1 に示すとおりである。

表 5.13-1 調査事項(東京 2020 大会の開催前)

区 分	調査事項
予測した事項	・水の効率的利用への取組・貢献の程度
予測条件の状況	・雨水利用設備の状況
ミティゲーション の実施状況	・屋根に降った雨水を、地下の貯水槽に貯留する計画とし、貯水槽は2,183 m³、ろ過処理の設置を計画としている。 ・施設内で利用した厨房排水及び雑排水を集水し中水処理する設備として、膜分離活性汚泥方式、オゾン処理による処理設備（処理能力196 m³/日）を設置する計画としている。 ・雨水や施設内で利用した排水を処理した循環利用水（中水）及び井水を、トイレ洗浄水や芝散水、屋外地盤散水等に使用する計画としている。 ・節水型トイレの導入、擬音装置の設置、トイレ手洗器の自動水栓等について導入を検討している。 ・必要に応じて利用者に対する節水を周知するなど、より一層の水使用量の削減に努める計画としている。 ・「雨水の利用の促進に関する法律」の趣旨を尊重し、今後、更なる雨水利用を努める計画としている。

2) 調査地域

調査地域は、計画地とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.13-2 に示すとおりである。

表 5.13-2 調査手法(東京 2020 大会の開催前)

調査事項		水の効率的利用への取組・貢献の程度
調査時点		施設完成後とする。
調査期間	予測した事項	施設完成後の適宜とする。
	予測条件の状況	施設完成後の適宜とする。
	ミティゲーションの実施状況	施設完成後の適宜とする。
調査地点	予測した事項	計画地とする。
	予測条件の状況	計画地とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地とする。
調査手法	予測した事項	関連資料の整理による方法とする。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。

(2) 東京 2020 大会の開催後

東京 2020 大会開催後における水利用の状況は、開催前と同様であるため、調査は開催前に兼ねることとする。

5.14 廃棄物

(1) 東京 2020 大会の開催前

1) 調査事項

調査事項は、表 5.14-1 に示すとおりである。

表 5.14-1 調査事項(東京 2020 大会の開催前)

区 分	調査事項
予測した事項	・ 廃棄物の排出量及び再利用量並びに処理・処分方法等
予測条件の状況	・ 工事の実施状況
ミティゲーション の実施状況	・ 配管ピットが不要な範囲にマットスラブを採用し、掘削土量を抑制する計画としている。 ・ フィールド床付レベルを高くすることで、掘削残土の縮減を図る計画としている。 ・ 掘削工事等に伴い発生する建設発生土については、一部を計画地内の埋戻し土等に利用する計画としている。 ・ 建設発生土を場外に搬出する場合には、受入れ基準を満足していることを確認の上、関係法令に係る許可を受けた施設において、適正な処理を行う計画としている。 ・ 建設汚泥については、産業廃棄物として再資源化施設への搬出等による適正処理を行う計画としている。 ・ 建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律に基づく特定建設資材廃棄物については現場内で分別解体を行い、可能な限り現場内利用に努め、現場で利用できないものは現場外で再資源化を行う計画としている。 ・ 建設廃棄物の分別を徹底し、種類に応じて保管、排出、再利用促進及び不要材の減量等を図る。再利用できないものは、運搬・処分の許可を得た業者に委託して処理・処分を行い、その状況はマニフェストにより確認する計画としている。 ・ コンクリート型枠材については、非木材系型枠の採用や部材のプレハブ化等により木材系型枠材の使用量を低減する計画としている。 ・ 建設廃棄物の発生量を低減するような施工計画を検討し、施工業者に遵守させる計画としている。 ・ 施設整備に当たっては、リサイクル材料を積極的に使用する計画としている。

2) 調査地域

調査地域は、計画地とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.14-2 に示すとおりである。

表 5.14-2 調査手法(東京 2020 大会の開催前)

調査事項		施設の建設に伴う廃棄物の排出量及び再利用量並びに処理・処分方法等
調査時点		工事の施行中とする。
調査期間	予測した事項	工事中の適宜とする。
	予測条件の状況	工事中の適宜とする。
	ミティゲーションの実施状況	工事中の適宜とする。
調査地点	予測した事項	計画地とする。
	予測条件の状況	計画地とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地とする。
調査手法	予測した事項	関連資料の整理による方法とする。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。

(2) 東京 2020 大会の開催後

1) 調査事項

調査事項は、表 5.14-3 に示すとおりである。

表 5.14-3 調査事項(東京 2020 大会の開催後)

区 分	調査事項
予測した事項	・ 廃棄物の排出量及び再利用量並びに処理・処分方法等
予測条件の状況	・ 施設の利用者数
ミティゲーション の実施状況	・ 新宿区の分別方法に従い、古紙（段ボールを含む。）、びん、缶、ペットボトルは、資源として分別回収を行う計画としている。 ・ 新宿区の分別方法に従い、容器包装プラスチック、スプレー缶、カセットボンベ、乾電池、蛍光灯についても、資源として分別回収を行う計画としている。 ・ 飲食事業等から発生する廃棄物については、極力発生量を減らし、発生する廃棄物に対しては、再資源化が図れるように適切な分別を実施する計画としている。 ・ スポーツ大会、イベントの開催時において発生する廃棄物については、廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づき、各事業者が“事業活動に伴って生じた廃棄物を自らの責任において適正に処理”する必要があるため、大会やイベントの開催事業者への十分な周知を行い、開催事業者が処理・処分を行うように調整する計画としている。 ・ 再利用・再資源化率に関しては、旧国立霞ヶ丘競技場におけるリサイクル率以上の目標設定について、検討する計画としている。 ・ 産業廃棄物が発生した場合は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び東京都廃棄物条例に基づき、収集・運搬・処分の許可を得た産業廃棄物処理業者に委託して処理・処分を行い、その状況はマニフェストにより確認する計画としている。 ・ 敷地内樹木からの落ち葉をコンポスト化し、植栽の肥料に利用する事で資源循環を図る計画としている。

2) 調査地域

調査地域は、計画地とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.14-4 に示すとおりである。

表 5.14-4 調査手法(東京 2020 大会の開催後)

調査事項		設備等の持続的稼働に伴う廃棄物の排出量及び再利用量並びに処理・処分方法等
調査時点		施設の供用が開始され、事業活動が通常の状態に達した時点とする。
調査期間	予測した事項	供用開始後の適宜とする。
	予測条件の状況	供用開始後の適宜とする。
	ミティゲーションの実施状況	供用開始後の適宜とする。
調査地点	予測した事項	計画地とする。
	予測条件の状況	計画地とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地とする。
調査手法	予測した事項	関連資料の整理による方法とする。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。

5.15 エコマテリアル

(1) 東京 2020 大会の開催前

1) 調査事項

調査事項は、表 5.15-1 に示すとおりである。

表 5.15-1 調査事項(東京 2020 大会の開催前)

区 分	調査事項
予測した事項	・エコマテリアルの利用への取組・貢献の程度
予測条件の状況	・環境物品調達方針
ミティゲーション の実施状況	・建設資材についてエコマテリアルの適用品目があるものについては、適用品目を利用するよう努める計画としている。 ・基礎底盤に高炉セメントを採用する他、建物の内外部に積極的に木材を使用し、選定する木材は、森林認証を得た森林から調達を行う計画としている。 ・今後、開発・実用化される素材についても、積極的な利用に努める計画としている。 ・大会組織委員会が調達する木材を対象とした「持続可能性に配慮した木材の調達基準」が策定され、都や国等が当該基準を尊重するよう働きかけを受けていることから、その趣旨に基づく木材の調達に可能な限り努める計画としている。 ・資材の搬入、副産物の搬出に当たっては、あらかじめ再生資源利用計画・利用促進計画書を作成し、実施状況は、再生資源利用計画・利用促進計画実績書にて記録・保存を行う計画としている。 ・エコマテリアルの使用状況確認については、フォローアップで確認する。

2) 調査地域

調査地域は、計画地とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.15-2 に示すとおりである。

表 5.15-2 調査手法(東京 2020 大会の開催前)

調査事項		エコマテリアルの利用への取組・貢献の程度
調査時点		工事の施行中とする。
調査期間	予測した事項	工事中の適宜とする。
	予測条件の状況	工事中の適宜とする。
	ミティゲーションの実施状況	工事中の適宜とする。
調査地点	予測した事項	計画地とする。
	予測条件の状況	計画地とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地とする。
調査手法	予測した事項	関連資料の整理による方法とする。
	予測条件の状況	関連資料の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	関連資料の整理による方法とする。

5.16 温室効果ガス

(1) 東京 2020 大会の開催前

1) 調査事項

調査事項は、表 5.16-1 に示すとおりである。

表 5.16-1 調査事項(東京 2020 大会の開催前)

区 分	調査事項
予測した事項	・ 温室効果ガスの排出量及びその削減の程度
予測条件の状況	・ 建設機械の稼働の状況（種類、台数、規格、稼働時間）
ミティゲーションの実施状況	・ 建設機械の稼働に当たっては、アイドリングストップやエンジン回転の抑制など省エネ運転を徹底する他、極力、温室効果ガス排出量が少ない建設機械を使用する等の配慮も行う計画としている。

2) 調査地域

調査地域は、計画地とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.16-2 に示すとおりである。

表 5.16-2 調査手法(東京 2020 大会の開催前)

調査事項		温室効果ガスの排出量及びその削減の程度
調査時点		工事の施行中とする。
調査期間	予測した事項	工事中の適宜とする。
	予測条件の状況	工事中の適宜とする。
	ミティゲーションの実施状況	工事中の適宜とする。
調査地点	予測した事項	計画地とする。
	予測条件の状況	計画地とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地とする。
調査手法	予測した事項	関連資料（建設作業日報等）の整理による方法とする。
	予測条件の状況	関連資料（建設作業日報等）の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	関連資料（建設作業日報等）の整理による方法とする。

(2) 東京 2020 大会の開催後

1) 調査事項

調査事項は、表 5.16-3(1)、(2)に示すとおりである。

表 5.16-3(1) 調査事項(東京 2020 大会の開催後)

区 分	調査事項
予測した事項	・ 温室効果ガスの排出量及びその削減の程度
予測条件の状況	・ 省エネルギー設備の状況
ミティゲーションの実施状況	・ 熱源は、環境性能などから電気・ガス熱源のミックス方式を採用する計画としている。一方で防災性能が求められる空調室には、常用発電機による保安電源で運転可能な空冷ヒートポンプエアコンを採用（一部にGHP採用）する計画としている。 ・ 設備設置においては、「エネルギー基本計画」等を踏まえ、再生可能エネルギーの利用を検討し、屋根先端にガラス一体型シーソー薄膜太陽電池を設置し、発電した電力を本施設のベース電力として利用する計画としている。 ・ 主要熱源は複数台設置とし、年間を通じて最適運転制御を行い、ガスと電気の使用量を削減する計画としている。 ・ スタンド各層及びメイン、バック、サイドの各客席ゾーン毎に設備の系統を分けることで使わないエリアの省エネルギー化を図る計画としている。 ・ イベント以外でも利用する諸室を個別空調方式とすることで、イベント利用時以外での中央熱源の稼働を少なくする計画としている。 ・ 中央熱源は、部分負荷時の対応として、変流量制御を導入する他、ピーク時においても輸送能力を節減するため、冷温水の行き還り温度を大きく設定して、循環流量を抑える制御を取り入れる計画としている。 ・ イベント非開催時は競技関連負荷等の変圧器を遮断することで、未使用設備の待機電力や変圧器による無負荷損失を削減する計画としている。 ・ 熱負荷のピークが重なる競技系諸室には、省エネルギー技術を取り入れたシステムCOP（成績係数）の高い中央熱源式空調とする計画としている。 ・ 駐車場やVIPラウンジ等は、室容積及び換気量が大きくかつ、利用率変動も大きいため、CO/CO₂制御及び変風量制御を行う計画としている。 ・ 管理系諸室に設置する空冷ヒートポンプエアコンの室外機には散水装置を設ける計画としている。 ・ 屋根の南側にガラストップライトを設けて自然光をできる限りピッチ面に取り込む計画とし、補光設備必要範囲を減少させる計画としている。 ・ 「風の大庇」の開口率（ルーバー間隔）を調整し、スタジアム全体の気流分布と換気ルートの適正化を図る計画としている。 ・ 大型送風機を適切に配置し、有風時は導入された風の流れを有効に利用する計画としている。 ・ 各階には観客席へ風を取り込む「風の庭」を設けて、これらの開口による弱風時における温度差換気による、外気取入れと排熱促進を行う計画としている。 ・ 日照熱軽減のため、高圧木毛セメント板を野地板に使用した金属屋根とし、日射反射率の高い塗装を行う計画としている。 ・ 屋根の透明ガラス下部には、夏季に観客席に入る日射を防ぐ角度で固定アルミルーバーを設置する計画としている。 ・ 外壁は庇により深い軒を形成し、諸室における夏季の日射遮蔽と冬季の日射熱取得との両立を図る計画としている。 ・ 汎用BEMSの機能に加えて、トータルエネルギーコストおよび環境負荷を最小化する最適運転を支援するBEMSの設置を検討する計画としている。 ・ ハイブリッドソーラー外灯を部分的に採用する計画としている。 ・ 敷地内に下水本管（千駄ヶ谷幹線）が敷設されているという条件や、東京都下水道局管内での先駆的試みという面からも、未利用エネルギーである下水熱利用の採用を検討する計画としている。

表 5.16-3(2) 調査事項(東京 2020 大会の開催後)

区 分	調査事項
ミティゲーションの実施状況 (つづき)	・建築物の熱負荷の低減率(PAL*低減率)を20%以上、設備システムのエネルギー利用の低減率(ERR)を「東京都建築物環境配慮指針」の改定に鑑み27%を目標値とした計画としている。また、建築環境総合性能評価システム(CASBEE)では、最高ランクのSランクを達成する計画としている。 ・設備を更新する場合には、より高効率な機器の採用を検討する計画としている。 ・六フッ化硫黄(SF6)の排出量削減に向けて、変圧器等電気機械器具の使用開始時や点検時における六フッ化硫黄(SF6)回収率の高い技術の採用を検討する計画としている。

2) 調査地域

調査地域は、計画地とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.16-4 に示すとおりである。

表 5.16-4 調査手法(東京 2020 大会の開催後)

調査事項		温室効果ガスの排出量及びその削減の程度
調査時点		施設の供用が開始され、事業活動が通常の状態に達した時点とする。
調査期間	予測した事項	供用開始後の適宜とする。
	予測条件の状況	供用開始後の適宜とする。
	ミティゲーションの実施状況	供用開始後の適宜とする。
調査地点	予測した事項	計画地とする。
	予測条件の状況	計画地とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地とする。
調査手法	予測した事項	関連資料の整理又は電気・ガス使用量の整理による方法とする。
	予測条件の状況	関連資料の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	関連資料の整理による方法とする。

5.17 エネルギー

(1) 東京 2020 大会の開催前

1) 調査事項

調査事項は、表 5.17-1 に示すとおりである。

表 5.17-1 調査事項(東京 2020 大会の開催前)

区 分	調査事項
予測した事項	・エネルギーの使用量及びその削減の程度
予測条件の状況	・建設機械の稼働の状況（種類、台数、規格、稼働時間）
ミティゲーションの実施状況	・建設機械の稼働に当たっては、アイドリングストップやエンジン回転の抑制など省エネ運転を徹底する他、極力、燃費性能の高い建設機械を使用する等の配慮も行う計画としている。

2) 調査地域

調査地域は、計画地とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.17-2 に示すとおりである。

表 5.17-2 調査手法(東京 2020 大会の開催前)

調査事項		エネルギーの使用量及びその削減の程度
調査時点		工事の施行中とする。
調査期間	予測した事項	工事中の適宜とする。
	予測条件の状況	工事中の適宜とする。
	ミティゲーションの実施状況	工事中の適宜とする。
調査地点	予測した事項	計画地とする。
	予測条件の状況	計画地とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地とする。
調査手法	予測した事項	関連資料（建設作業日報等）の整理による方法とする。
	予測条件の状況	関連資料（建設作業日報等）の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	関連資料（建設作業日報等）の整理による方法とする。

(2) 東京 2020 大会の開催後

1) 調査事項

調査事項は、表 5.17-3(1)、(2)に示すとおりである。

表 5.17-3(1) 調査事項(東京 2020 大会の開催後)

区 分	調査事項
予測した事項	・エネルギーの使用量及びその削減の程度
予測条件の状況	・省エネルギー設備の状況
ミティゲーション の実施状況	・熱源は、環境性能などから電気・ガス熱源のミックス方式を採用する計画としている。一方で防災性能が求められる空調室には、常用発電機による保安電源で運転可能な空冷ヒートポンプエアコンを採用（一部にGHP採用）する計画としている。 ・設備設置においては、「エネルギー基本計画」等を踏まえ、再生可能エネルギーの利用を検討し、屋根先端にガラス一体型シースルー薄膜太陽電池を設置し、発電した電力を本施設のベース電力として利用する計画としている。 ・主要熱源は複数台設置とし、年間を通じて最適運転制御を行い、ガスと電気の使用量を削減する計画としている。 ・スタンド各層及びメイン、バック、サイドの各客席ゾーン毎に設備の系統を分けることで使わないエリアの省エネルギー化を図る計画としている。 ・イベント以外でも利用する諸室を個別空調方式とすることで、イベント利用時以外での中央熱源の稼働を少なくする計画としている。 ・中央熱源は、部分負荷時の対応として、変流量制御を導入する他、ピーク時においても輸送能力を節減するため、冷温水の行き還り温度を大きく設定して、循環流量を抑える制御を取り入れる計画としている。 ・イベント非開催時は競技関連負荷等の変圧器を遮断することで、未使用設備の待機電力や変圧器による無負荷損失を削減する計画としている。 ・熱負荷のピークが重なる競技系諸室には、省エネルギー技術を取り入れたシステム COP（成績係数）の高い中央熱源式空調とする計画としている。 ・駐車場やVIP ラウンジ等は、室容積及び換気量が大きくかつ、利用率変動も大きいため、CO/CO₂ 制御及び変風量制御を行う計画としている。 ・管理系諸室に設置する空冷ヒートポンプエアコンの室外機には散水装置を設ける計画としている。 ・屋根の南側にガラストップライトを設けて自然光をできる限りピッチ面に取り込む計画とし、補光設備必要範囲を減少させる計画としている。 ・「風の大庇」の開口率（ルーバー間隔）を調整し、スタジアム全体の気流分布と換気ルートの適正化を図る計画としている。 ・大型送風機を適切に配置し、有風時は導入された風の流れを有効に利用する計画としている。 ・各階には観客席へ風を取り込む「風の庭」を設けて、これらの開口による弱風時における温度差換気による、外気取入れと排熱促進を行う計画としている。 ・日照熱軽減のため、高圧木毛セメント板を野地板に使用した金属屋根とし、日射反射率の高い塗装を行う計画としている。 ・屋根の透明ガラス下部には、夏季に観客席に入る日射を防ぐ角度で固定アルミルーバーを設置する計画としている。 ・外壁は庇により深い軒を形成し、諸室における夏季の日射遮蔽と冬季の日射熱取得との両立を図る計画としている。 ・汎用 BEMS の機能に加えて、トータルエネルギーコストおよび環境負荷を最小化する最適運転を支援する BEMS の設置を検討する計画としている。 ・ハイブリッドソーラー外灯を部分的に採用する計画としている。

表 5.17-3(2) 調査事項(東京 2020 大会の開催後)

区 分	調査事項
ミティゲーション の実施状況 (つづき)	- 敷地内に下水本管(千駄ヶ谷幹線)が敷設されているという条件や、東京都下水道局管内での先駆的試みという面からも、未利用エネルギーである下水熱利用の採用を検討する計画としている。 - 建築物の熱負荷の低減率(PAL*低減率)を20%以上、設備システムのエネルギー利用の低減率(ERR)を「東京都建築物環境配慮指針」の改定に鑑み27%を目標値とした計画としている。また、建築環境総合性能評価システム(CASBEE)では、最高ランクのSランクを達成する計画としている。 - 設備を更新する場合には、より高効率な機器の採用を検討する計画としている。

2) 調査地域

調査地域は、計画地とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.17-4 に示すとおりである。

表 5.17-4 調査手法(東京 2020 大会の開催後)

調査事項		エネルギーの使用量及びその削減の程度
調査時点		施設の供用が開始され、事業活動が通常の状態に達した時点とする。
調査期間	予測した事項	供用開始後の適宜とする。
	予測条件の状況	供用開始後の適宜とする。
	ミティゲーションの実施状況	供用開始後の適宜とする。
調査地点	予測した事項	計画地とする。
	予測条件の状況	計画地とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地とする。
調査手法	予測した事項	関連資料の整理又は電気・ガス使用量の整理による方法とする。
	予測条件の状況	関連資料の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	関連資料の整理による方法とする。

5.18 土地利用

(1) 東京 2020 大会の開催前

1) 調査事項

調査事項は、表 5.18-1 に示すとおりである。

表 5.18-1 調査事項(東京 2020 大会の開催前)

区 分	調査事項
予測した事項	・ 自然地の改変・転用の有無及びその程度
予測条件の状況	・ 土地利用の状況
ミティゲーションの実施状況	・ 神宮外苑地区地区計画に掲げる方針や新宿区が定める土地利用に沿った事業計画としている。 ・ 神宮外苑地区では、本事業を契機として周辺の大規模スポーツ施設とあわせて、多様な機能が集積するスポーツ・文化の拠点形成が推進される。

2) 調査地域

調査地域は、計画地とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.18-2 に示すとおりである。

表 5.18-2 調査手法(東京 2020 大会の開催前)

調査事項		自然地の改変・転用の有無及びその程度
調査時点		施設完成後とする。
調査期間	予測した事項	施設完成後の適宜とする。
	予測条件の状況	施設完成後の適宜とする。
	ミティゲーションの実施状況	施設完成後の適宜とする。
調査地点	予測した事項	計画地とする。
	予測条件の状況	計画地とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地とする。
調査手法	予測した事項	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。

5.19 地域分断

(1) 東京 2020 大会の開催前

1) 調査事項

調査事項は、表 5.19-1 に示すとおりである。

表 5.19-1 調査事項(東京 2020 大会の開催前)

区 分	調査事項
予測した事項	・生活動線（特に歩行者動線）の分断又は進展の有無及びその規模、範囲、時間及び程度
予測条件の状況	・施設配置計画
ミティゲーションの実施状況	・敷地は自由に通り抜けられる通路空間として整備し、歩行者のアクセス性を向上させる計画としている。 ・計画地内の外構部には、敷地内及び周辺の情報を表示した案内サインを設置する計画としている。

2) 調査地域

調査地域は、計画地とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.19-2 に示すとおりである。

表 5.19-2 調査手法(東京 2020 大会の開催前)

調査事項		生活動線（特に歩行者動線）の分断又は進展の有無及びその規模、範囲、時間及び程度
調査時点		施設完成後とする。
調査期間	予測した事項	施設完成後の適宜とする。
	予測条件の状況	施設完成後の適宜とする。
	ミティゲーションの実施状況	施設完成後の適宜とする。
調査地点	予測した事項	計画地とする。
	予測条件の状況	計画地とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地とする。
調査手法	予測した事項	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。

(2) 東京 2020 大会の開催後

東京 2020 大会開催後における地域分断の状況は、開催前と同様であるため、調査は開催前に兼ねることとする。

5.20 移転

(1) 東京 2020 大会の開催前

1) 調査事項

調査事項は、表 5.20-1 に示すとおりである。

表 5.20-1 調査事項(東京 2020 大会の開催前)

区 分	調査事項
予測した事項	・対象地及びその周辺の土地における施設整備等による住宅、店舗等の移転の規模、範囲及び程度
予測条件の状況	・土地利用の状況
ミティゲーションの実施状況	・計画地内の旧日本青年館は、近隣に同等の機能を有する施設整備を行う計画として いる。 ・旧日本青年館の移転状況については、フォローアップで確認する。

2) 調査地域

調査地域は、計画地とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.20-2 に示すとおりである。

表 5.20-2 調査手法(東京 2020 大会の開催前)

調査事項		対象地及びその周辺の土地における施設整備等による住宅、店舗等の移転の規模、範囲及び程度
調査時点		施設完成後とする。
調査期間	予測した事項	施設完成後の適宜とする。
	予測条件の状況	施設完成後の適宜とする。
	ミティゲーションの実施状況	施設完成後の適宜とする。
調査地点	予測した事項	計画地とする。
	予測条件の状況	計画地とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地とする。
調査手法	予測した事項	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。

5.21 安全

(1) 東京 2020 大会の開催前

1) 調査事項

調査事項は、表 5.21-1 に示すとおりである。

表 5.21-1 調査事項(東京 2020 大会の開催前)

区 分	調査事項
予測した事項	・危険物施設等からの安全性の確保の程度 ・移動の安全のためのバリアフリー化の程度 ・電力供給の安定度
予測条件の状況	・計画地周辺の危険物施設等の状況 ・施設内及び最寄りの鉄道駅から会場までの歩行者経路におけるバリアフリー施設の状況 ・電力供給施設の状況
ミティゲーションの実施状況	・高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律、高齢者、障害者等が利用しやすい建築物の整備に関する条例（建築物バリアフリー条例）、東京都福祉のまちづくり条例及びTokyo2020アクセシビリティ・ガイドライン暫定基準に適合した施設計画としている。 ・都としては「東京都長期ビジョン」において、2020年までに「2020年大会開催時における観光地や競技会場周辺等の道路のバリアフリー化」が完了する計画である。 ・車いす使用者への配慮として、全ての車いす席へのエレベーターでのアクセスを可能とし、同伴者席と車いす席が隣り合う座席計画とする等を行う計画としている。また、案内所、チケット売り場、売店のカウンターの一部をローカウンターにすること等を行う計画としている。 ・視覚障がい者への配慮として、誘導ブロック、音声誘導装置、案内所インターホン、触知版、点字の整備を計画し、ミニFM導入用のラジオブース等の整備を行う計画としている。 ・聴覚障がい者への配慮として、補聴設備対応席をバランス良く分散配置を計画する等を行う計画としている。また、総合案内所及び各階案内カウンターに筆談器を設置し、各トイレ、休憩室、授乳室にフラッシュランプを設置する等を行う計画としている。 ・知的・精神・発達障がい者等への配慮として、専用休憩室内に柔らかい壁材を選定し、防音仕様を採用する等を行う計画としている。 ・子供連れ利用者への配慮として、吹抜部やコンコース外周部手摺を縦棧手摺で計画し、トイレとは別に独立した授乳室の整備等を行う計画としている。 ・高齢者への配慮として、エレベーターは1階から5階まで、エスカレーターは1階から4階まで着床可能な計画とし、全ての観客席縦通路に手摺を設置し、観客席出入口付近にプライオリティシートの設置等を行う計画としている。また、外構では50m以内ごとにベンチの設置等を行う計画としている。 ・外国人利用者への配慮として、案内サインはピクトグラムや多言語表記等を行う計画としている。 ・サイン計画は、文字サイズ、表示高さ、色彩・明度差等において、様々な人に分かりやすいサインとする計画としている。 ・トイレ計画は、観客の流動を円滑にするため、出入口を別々に計画し、入口から見えやすい位置にオストメイト対応ブースを計画する等、各利用者への配慮を行う計画としている。 ・計画建築物の電力設備は、22kVの本線及び22kVの予備電源にて受電し、6,000kVAの特高変圧器2台を設置する計画としている。 ・保安用発電機は2,075kVAの2台とし、高圧変電設備についても、電圧種別ごとに1本の予備変圧器を設置する計画としている。 ・非常用発電機（2,500kVA）を設置する計画としている。 ・施設のユニバーサルデザインの状況については、フォローアップで確認する。

2) 調査地域

調査地域は、計画地及びその周辺とする。

3) 調査手法

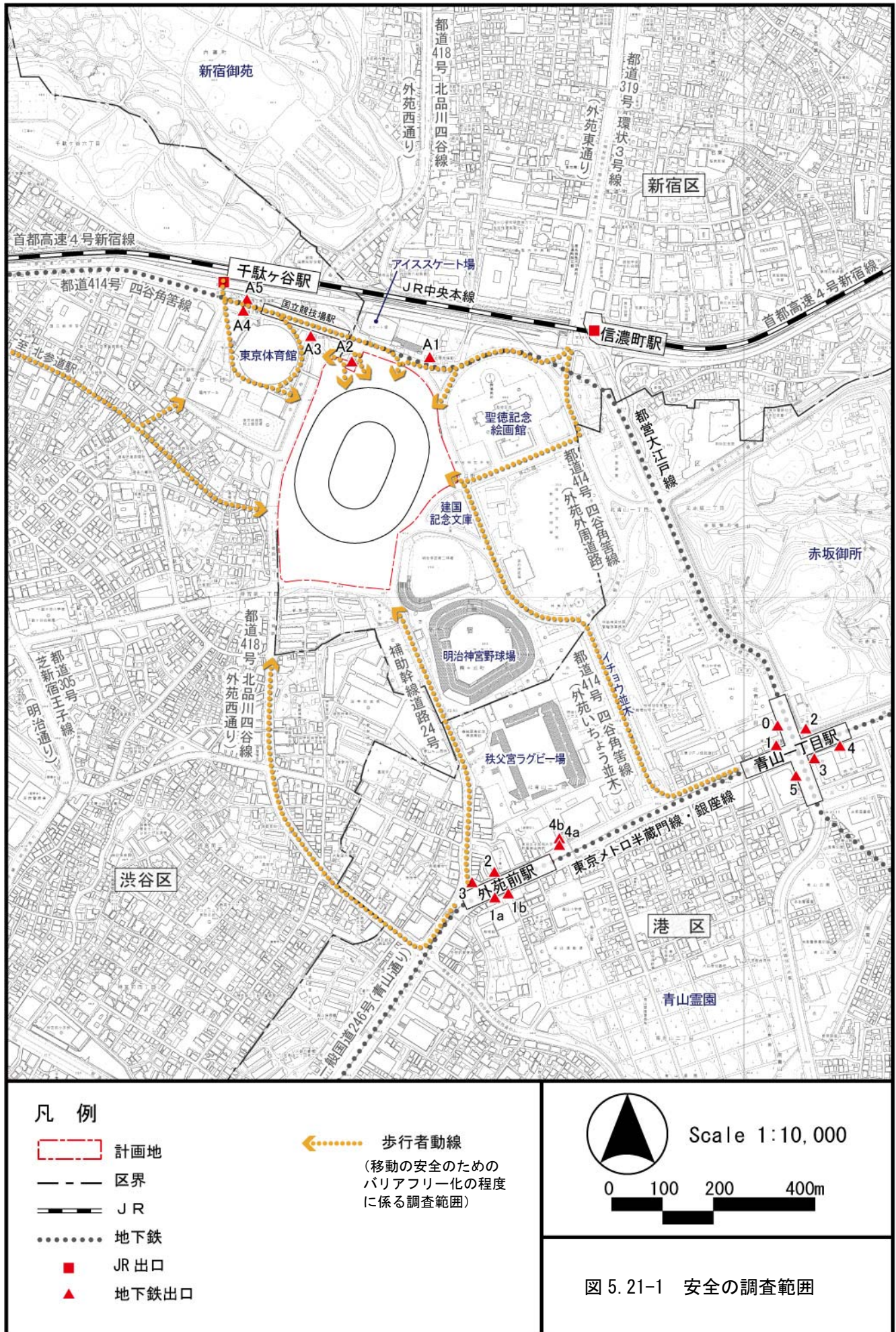
調査手法は、表 5.21-2 に示すとおりである。

表 5.21-2 調査手法(東京 2020 大会の開催前)

調査事項		危険物施設等からの安全性の確保の程度	移動の安全のためのバリアフリー化の程度	電力供給の安定度
調査時点		施設完成後とする。		施設の供用が開始され、事業活動が通常の状態に達した時点とする。
調査期間	予測した事項	施設完成後の適宜とする。		
	予測条件の状況	施設完成後の適宜とする。		
	ミティゲーションの実施状況	施設完成後の適宜とする。		
調査地点	予測した事項	計画地周辺とする。	計画地及び公共交通機関から計画地への主要なアクセス経路とする(図 5.21-1 参照)。	計画地とする。
	予測条件の状況	計画地周辺とする。	計画地及び公共交通機関から計画地への主要なアクセス経路とする(図 5.21-1 参照)。	計画地とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地周辺とする。	計画地及び公共交通機関から計画地への主要なアクセス経路とする(図 5.21-1 参照)。	計画地とする。
調査手法	予測した事項	関連資料の整理とする。	現地調査(写真撮影)及び関連資料の整理とする。	関連資料の整理とする。
	予測条件の状況	関連資料の整理とする。	現地調査(写真撮影)及び関連資料の整理とする。	関連資料の整理とする。
	ミティゲーションの実施状況	関連資料の整理とする。	現地調査(写真撮影)及び関連資料の整理とする。	関連資料の整理とする。

(2) 東京 2020 大会の開催後

東京 2020 大会開催後における安全の状況は、開催前と同様であるため、調査は開催前に兼ねることとする。



5.22 消防・防災

(1) 東京 2020 大会の開催前

1) 調査事項

調査事項は、表 5.22-1 に示すとおりである。

表 5.22-1 調査事項(東京 2020 大会の開催前)

区 分	調査事項
予測した事項	・耐震性の程度 ・防火性の程度
予測条件の状況	・耐震設備の状況 ・防災設備の状況
ミティゲーションの実施状況	・建築基準法、東京都建築安全条例、消防法及び東京都火災予防条例に準拠する耐震基準・防火基準を満たした計画としている。 ・災害時の避難経路も全体避難時間が15分以内となる計画としている。 ・緊急時の観客の避難経路は基本的に自席へのアクセスルートと一致させた計画としている。 ・避難ルートの1つが使用できない場合にも安全に避難できるルート幅員を確保することとしている。 ・避難者を受け入れるスペースを確保し、従業員、施設利用者及び外部からの帰宅困難者受入に伴い必要となる飲食料等の備蓄（約8万人相当）のための防災備蓄倉庫（約480m²）のほか、非常用発電機、マンホールトイレ等を整備する計画としており、災害時にこれらの機能が維持される計画としている。 ・災害時において迅速かつ適切な対応ができるよう今後、防災計画を策定する計画としている。

2) 調査地域

調査地域は、計画地とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.22-2 に示すとおりである。

表 5.22-2 調査手法(東京 2020 大会の開催前)

調査事項		耐震性の程度 防火性の程度
調査時点		施設完成後とする。
調査期間	予測した事項	施設完成後の適宜とする。
	予測条件の状況	施設完成後の適宜とする。
	ミティゲーションの実施状況	施設完成後の適宜とする。
調査地点	予測した事項	計画地とする。
	予測条件の状況	計画地とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地とする。
調査手法	予測した事項	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。

(2) 東京 2020 大会の開催後

東京 2020 大会開催後における消防・防災の状況は、開催前と同様であるため、調査は開催前に兼ねることとする。

5.23 交通渋滞

(1) 東京 2020 大会の開催前

1) 調査事項

調査事項は、表 5.23-1 に示すとおりである。

表 5.23-1 調査事項(東京 2020 大会の開催前)

区 分	調査事項
予測した事項	・ 工事用車両の走行に伴う交通渋滞の発生又は解消等、交通量及び交通流の変化の程度
予測条件の状況	・ 工事用車両の走行の状況 ・ 一般車両の状況
ミティゲーションの実施状況	・ 工事用車両の走行ルートは複数のルートに分散させる計画としている。 ・ 工事用車両の集中稼働を行わないよう、工事工程の平準化に努める計画としている。 ・ 工事用車両の走行に当たっては、安全走行の徹底、市街地での待機や違法駐車等をすることがないように、運転者への指導を徹底する計画としている。 ・ 工事作業員の通勤に際しては、公共交通機関を利用する等通勤車両の削減に努めるよう指導する計画としている。 ・ 工事用車両の出入口には交通整理員を配置する予定とし、計画地周辺の車両の通行に支障を与えないように配慮する計画としている。 ・ 上記のミティゲーションも含め、周辺地域における交通の円滑化及び交通安全の確保が図られるよう詳細な施工計画を作成する計画としている。

2) 調査地域

調査地域は、計画地及びその周辺とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5. 23-2 に示すとおりである。

表 5. 23-2 調査手法(東京 2020 大会の開催前)

調査事項		工事用車両の走行に伴う交通渋滞の発生又は解消等、交通量及び交通流の変化の程度
調査時点		工事用車両の走行台数が最大となる時点(工事着工後31か月目)とする。
調査期間	予測した事項	代表的な1日の内、工事用車両の走行時間及びその前後1時間を含む時間帯とする。
	予測条件の状況	【工事用車両、一般車両の状況】 「予測した事項」と同時期とする。
	ミティゲーションの実施状況	工事中の適宜とする。
調査地点	予測した事項	工事用車両走行ルート上の4地点(図5. 1-1(p. 49参照)に示す地点No. 1～3、5)とする。
	予測条件の状況	【工事用車両の状況】 工事用車両の出入口とする。 【一般車両の状況】 工事用車両走行ルート上の4地点(図5. 1-1(p. 49参照)に示す地点No. 1～3、5)とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地及びその周辺とする。
調査手法	予測した事項	ハンドカウンタによる計測(大型車、小型車の2車種分類)
	予測条件の状況	ハンドカウンタによる計測(大型車、小型車の2車種分類)
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。

5.24 公共交通へのアクセシビリティ

(1) 東京 2020 大会の開催前

1) 調査事項

調査事項は、表 5.24-1 に示すとおりである。

表 5.24-1 調査事項(東京 2020 大会の開催前)

区 分	調査事項
予測した事項	・工事用車両の走行に伴う会場から公共交通機関までのアクセス性の変化の程度
予測条件の状況	・工事用車両の走行の状況 ・アクセス経路における歩車道線分離の状況
ミティゲーションの実施状況	・工事用車両の出入口には交通整理員を配置する予定とし、計画地周辺の利用者も含めた一般歩行者の通行に支障を与えないよう配慮する計画としている。 ・計画地周辺の歩道等を占有する工事を行う場合には、代替路の設置、交通整理員の配置等を行う計画としている。 ・工事中は、明治神宮外苑へのアクセス経路を確保する計画としている。 ・工事工程の平準化や施工計画の検討により、工事用車両が集中しないこと等に努める計画としている。 ・歩道等を占有する工事を行う場合には代替路を設定するなど、アクセス経路を確保する計画としている。 ・上記のミティゲーションも含め、周辺地域における交通の円滑化及び交通安全の確保が図られるよう詳細な施工計画を作成する計画としている。

2) 調査地域

調査地域は、計画地及びその周辺とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5. 24-2 に示すとおりである。

表 5. 24-2 調査手法(東京 2020 大会の開催前)

調査事項		工事用車両の走行に伴う会場から公共交通機関までのアクセス性の変化の程度
調査時点		工事の施行中とする。
調査期間	予測した事項	工事中の適宜とする。
	予測条件の状況	工事中の適宜とする。
	ミティゲーションの実施状況	工事中の適宜とする。
調査地点	予測した事項	計画地及びその周辺とする。
	予測条件の状況	計画地及びその周辺とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地及びその周辺とする。
調査手法	予測した事項	現地調査（写真撮影等）及び関連資料の整理による方法とする。
	予測条件の状況	現地調査（写真撮影等）及び関連資料の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査（写真撮影等）及び関連資料の整理による方法とする。

5.25 交通安全

(1) 東京 2020 大会の開催前

1) 調査事項

調査事項は、表 5.25-1 に示すとおりである。

表 5.25-1 調査事項(東京 2020 大会の開催前)

区 分	調査事項
予測した事項	・アクセス経路における歩車道線の分離の向上又は低下等、交通安全の変化の程度
予測条件の状況	・アクセス経路における歩車道線分離の状況
ミティゲーションの実施状況	・工事用車両の出入口には交通整理員を配置する予定とし、計画地周辺の利用者也含めた一般歩行者の通行に支障を与えないよう配慮する計画としている。 ・計画地周辺の歩道等を占有する工事を行う場合には、代替路の設置、交通整理員の配置等を行う計画としている。 ・工事用車両の走行に当たっては、安全走行を徹底する計画としている。 ・工事中は、明治神宮外苑利用者の交通安全を確保する計画としている。 ・工事用車両の集中稼働を行わないよう、可能な限り工事工程の平準化に努める計画としている。 ・工事用車両の走行に当たっては、規制速度の遵守等安全走行の徹底、市街地での待機や違法駐車をすることがないように、運転者への指導を徹底する計画としている。 ・歩行者、自転車、一般車両等の優先の徹底、交差点進入時、右左折時における歩行者、自転車等の安全確認の徹底等の交通安全教育を工事用車両運転者に対して徹底する計画としている。 ・児童の登下校時間帯の通学路においては特に安全走行を徹底する計画としている。 ・上記のミティゲーションも含め、周辺地域における交通の円滑化及び交通安全の確保が図られるよう詳細な施工計画を作成する計画としている。

2) 調査地域

調査地域は、計画地及びその周辺とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5. 25-2 に示すとおりである。

表 5. 25-2 調査手法(東京 2020 大会の開催前)

調査事項		アクセス経路における歩車道線の分離の向上又は低下等、交通安全の変化の程度
調査時点		工事の施行中とする。
調査期間	予測した事項	工事中の適宜とする。
	予測条件の状況	工事中の適宜とする。
	ミティゲーションの実施状況	工事中の適宜とする。
調査地点	予測した事項	計画地及びその周辺とする。
	予測条件の状況	計画地及びその周辺とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地及びその周辺とする。
調査手法	予測した事項	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。

(2) 東京 2020 大会の開催後

1) 調査事項

調査事項は、表 5. 25-3 に示すとおりである。

表 5. 25-3 調査事項(東京 2020 大会の開催後)

区 分	調査事項
予測した事項	・アクセス経路における歩車道線の分離の向上又は低下等、交通安全の変化の程度
予測条件の状況	・アクセス経路における歩車道線分離の状況
ミティゲーションの実施状況	・イベント時の観客の安全な入退場を可能にするため、外壁面を後退させ、オープンスペースを確保する計画としている。 ・敷地内経路は、段差、勾配を最小とし、安全なアクセス環境を実現する計画としている。 ・計画地にはペDESTリアンデッキを整備し、立体的な歩車道線の分離を図る計画としている。

2) 調査地域

調査地域は、計画地及びその周辺とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5. 25-4 に示すとおりである。

表 5. 25-4 調査手法(東京 2020 大会の開催後)

調査事項		アクセス経路における歩車道線の分離の向上又は低下等、交通安全の変化の程度
調査時点		施設の供用が開始され、事業活動が通常の状態に達した時点とする。
調査期間	予測した事項	供用開始後の適宜とする。
	予測条件の状況	供用開始後の適宜とする。
	ミティゲーションの実施状況	供用開始後の適宜とする。
調査地点	予測した事項	計画地及びその周辺とする。
	予測条件の状況	計画地及びその周辺とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地及びその周辺とする。
調査手法	予測した事項	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。

5.26 フォローアップ報告書の提出時期

フォローアップ報告書の提出時期及び内容は、表 5.26-1(1)、(2)に示すとおりである。

表 5.26-1(1) フォローアップの工程及びフォローアップ報告書の提出時期（東京 2020 大会の開催前）

年・月		平成28年度												平成29年度																平成30年度																平成31年度																平成32年度											
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月																																	
工事及び調査内容		工事着工からの月数		-1	-2	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49																			
工事工程	本体工事	準備工事																																																																							
		山留工事																																																																							
		土工事（掘削工事）																																																																							
		基礎工事																																																																							
		地下・地上躯体工事																																																																							
フォローアップ調査工程	調査項目	仕上工事																																																																							
		外構工事																																																																							
		大気等	大会の開催前	工事用車両の走行																																																																					
			大会の開催前	建設機械の稼働																																																																					
			大会の開催前	ミティゲーション																																																																					
		土壌	大会の開催前	土壌汚染物質の変化																																																																					
			大会の開催前	地下水等への影響の可能性の有無																																																																					
			大会の開催前	ミティゲーション																																																																					
		生物の生育・生態基盤	大会の開催前	賦存地の改変																																																																					
			大会の開催前	生育・生態基盤の創出の有無等																																																																					
			大会の開催前	ミティゲーション																																																																					
		水循環	大会の開催前	地下水涵養能の変化																																																																					
			大会の開催前	地下水の水位及び流動の変化																																																																					
			大会の開催前	ミティゲーション																																																																					
		生物・生態系	大会の開催前	陸上植物の変化の内容等																																																																					
			大会の開催前	陸上動物の変化の内容等																																																																					
			大会の開催前	生育・生態環境の変化の内容等																																																																					
			大会の開催前	生態系の変化の内容等																																																																					
		緑	大会の開催前	植栽内容及び緑の量の変化																																																																					
			大会の開催前	ミティゲーション																																																																					
			大会の開催前	工事用車両の走行																																																																					
		騒音・振動	大会の開催前	建設機械の稼働																																																																					
			大会の開催前	ミティゲーション																																																																					
			大会の開催前	配慮すべき施設等の日影の変化																																																																					
		日影	大会の開催前	冬至日における日影の変化																																																																					
			大会の開催前	日影阻害の住宅戸数等																																																																					
			大会の開催前	ミティゲーション																																																																					
		景観	大会の開催前	地域景観の特性の変化																																																																					
			大会の開催前	景観阻害又は貢献																																																																					
			大会の開催前	眺望の変化																																																																					
			大会の開催前	景勝地の消滅又は改変																																																																					
			大会の開催前	圧迫感の変化の程度																																																																					
			大会の開催前	緑視率の変化																																																																					
			大会の開催前	景観阻害要因の変化																																																																					
			大会の開催前	ミティゲーション																																																																					
		自然との触れ合い活動の場	大会の開催前	消滅の有無又は改変																																																																					
			大会の開催前	阻害又は促進																																																																					
			大会の開催前	利用経路に与える影響																																																																					
		歩行者空間の快適性	大会の開催前	ミティゲーション																																																																					
			大会の開催前	緑の程度																																																																					
			大会の開催前	歩行者が感じる快適性																																																																					
		史跡・文化財	大会開催前	ミティゲーション																																																																					
			大会開催前	文化財等の損傷等																																																																					
			大会開催前	文化財等の周辺環境の変化																																																																					
			大会開催前	埋蔵文化財包蔵地の改変																																																																					
			大会開催前	文化財等の保護・保全対策																																																																					
			大会開催前	文化財等の回復																																																																					
		水利用	大会の開催前	ミティゲーション																																																																					
			大会の開催前	水の効率的利用への取組・貢献																																																																					
廃棄物	大会の開催前	ミティゲーション																																																																							
	大会の開催前	廃棄物の排出量及び再利用量等																																																																							
エコマテリアル	大会の開催前	ミティゲーション																																																																							
	大会の開催前	エコマテリアルの利用への取組等																																																																							
温室効果ガス	大会の開催前	ミティゲーション																																																																							
	大会の開催前	温室効果ガスの排出量及びその削減																																																																							
エネルギー	大会の開催前	ミティゲーション																																																																							
	大会の開催前	エネルギーの使用量及びその削減																																																																							
土地利用	大会の開催前	ミティゲーション																																																																							
	大会の開催前	自然地の改変・転用の有無等																																																																							
地域分断	大会の開催前	ミティゲーション																																																																							
	大会の開催前	生活動線の分断又は進展の有無等																																																																							
移転	大会の開催前	ミティゲーション																																																																							
	大会の開催前	住宅・店舗等の移転の規模・範囲等																																																																							
安全	大会の開催前	ミティゲーション																																																																							
	大会の開催前	安全性の確保																																																																							
	大会の開催前	バリアフリー化																																																																							
消防・防災	大会の開催前	電力供給の安定度																																																																							
	大会の開催前	ミティゲーション																																																																							
	大会の開催前	耐震性																																																																							
交通渋滞	大会の開催前	津波対策																																																																							
	大会の開催前	防火性																																																																							
	大会の開催前	ミティゲーション																																																																							
公共交通のアクセシビリティ	大会の開催前	交通量及び交通流の変化																																																																							
	大会の開催前	ミティゲーション																																																																							
	大会の開催前	アクセシビリティの変化																																																																							
交通安全	大会の開催前	ミティゲーション																																																																							
	大会の開催前	交通安全の変化																																																																							
報告書提出時期																																																																									
凡例		○：調査時点 ●：継続調査 ➡：報告																																																																							
		大会開催前報告書																																																																							

表 5. 26-1 (2) フォローアップの工程及びフォローアップ報告書の提出時期（東京 2020 大会の開催中及び開催後）

年・月			平成31年度			平成32年度												平成33年度												平成34年度																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
東京20020大会オリンピック競技大会																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	</

